

● 尺度の構成は先人からひきつがれたもの

## 3. 尺 度

すべてのものの基準は人間である。

建築はまず人間の大きさと調和した比率をもち、  
次に周囲の建物を尊重しなければならない。

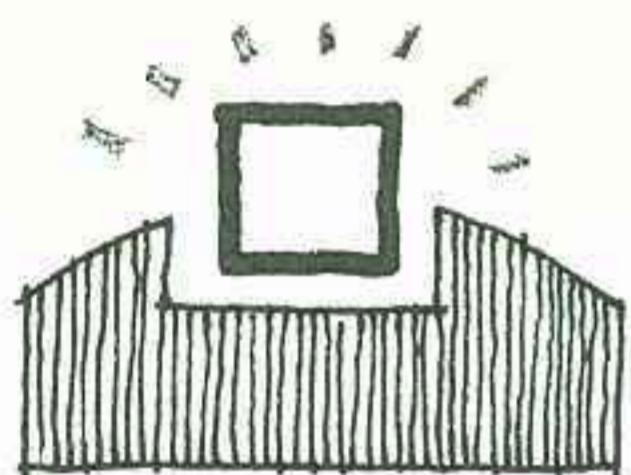
## キーワード

## 前提条件

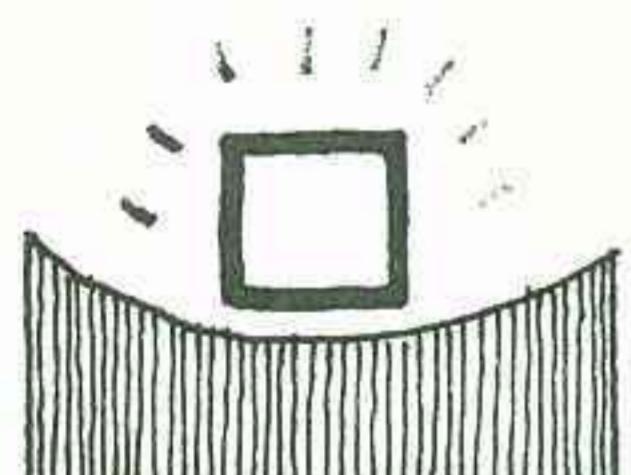
### ○斜面に沿う形

真鶴町全域の大地は斜面地である。  
それらの大地は、半島の形、山の形が認識できるほどの大きさでもある。これら大地の形の印象は高い建物を許さないように思われる。

### ●大地のフォルムから抜き出た建物、凸型



### ●大地のフォルムから抜き出た建物、凹型



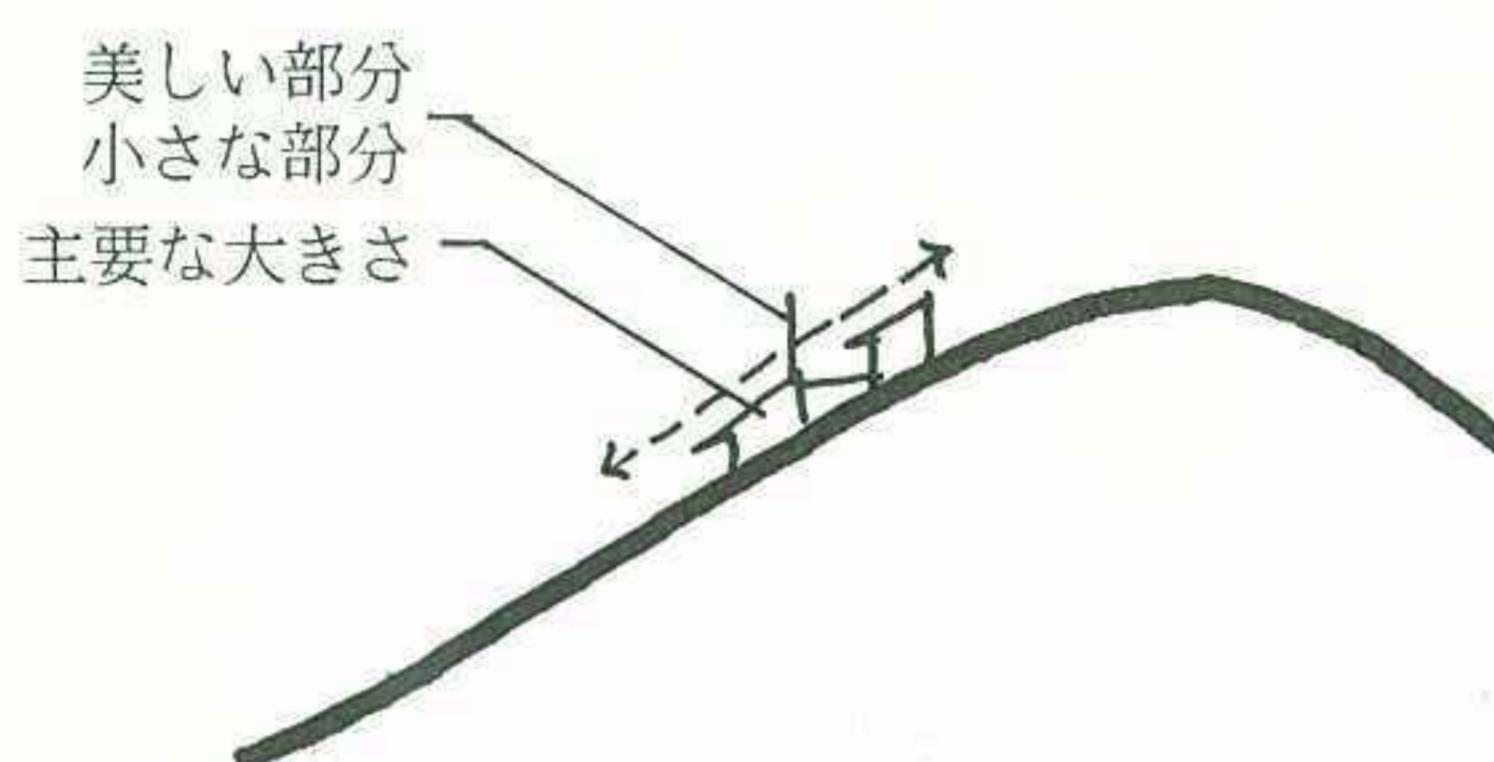
## 解 決 法

建物の主要の大きさを持つ部分は斜面地に逆らわないように計画すること。

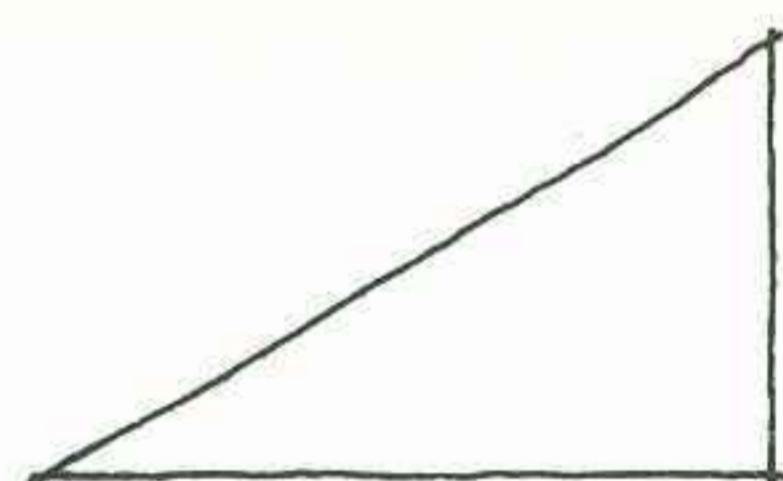
「格づけ」となるような小さなものは斜面から抜け出しても良い。

## 課 題

山



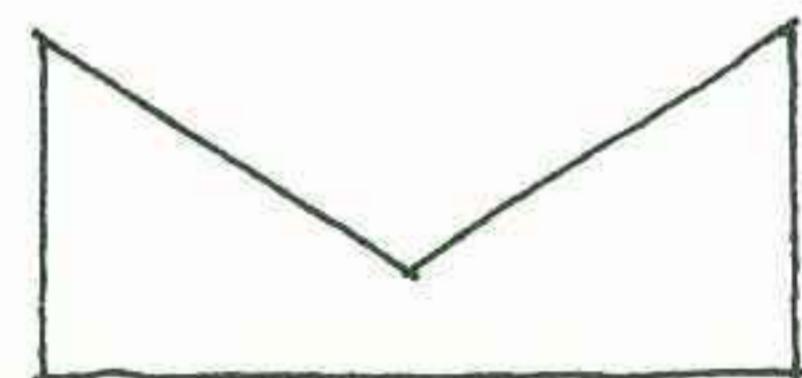
●この印象をこわさない



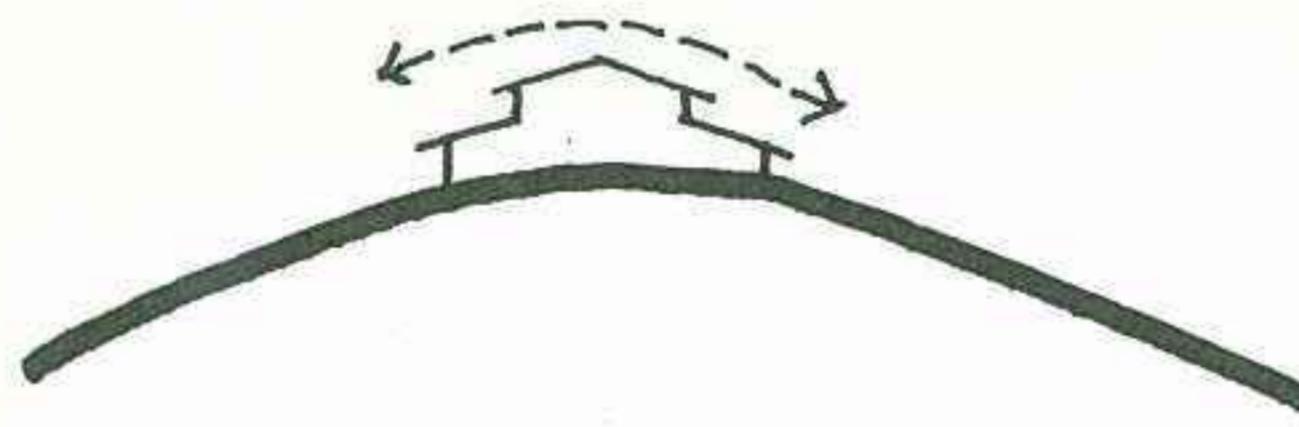
谷



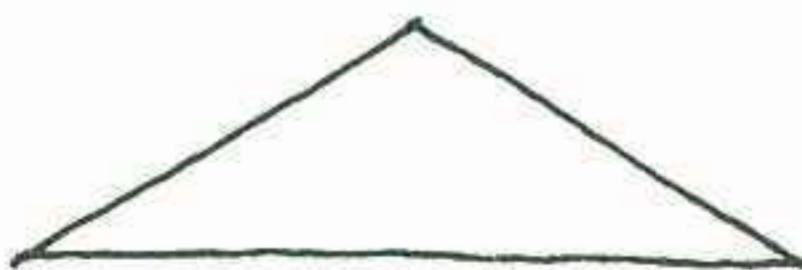
●この印象をこわさない



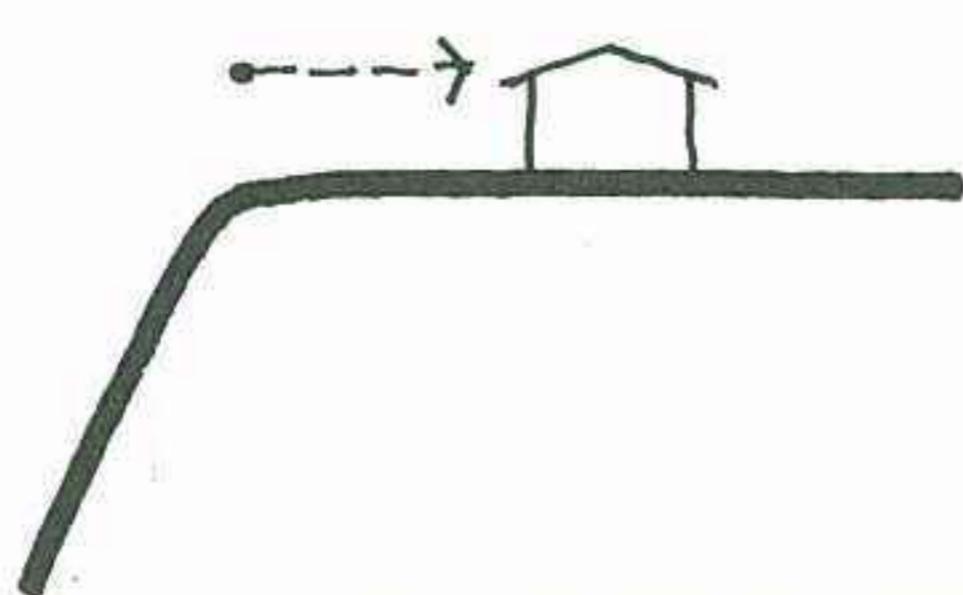
頂上



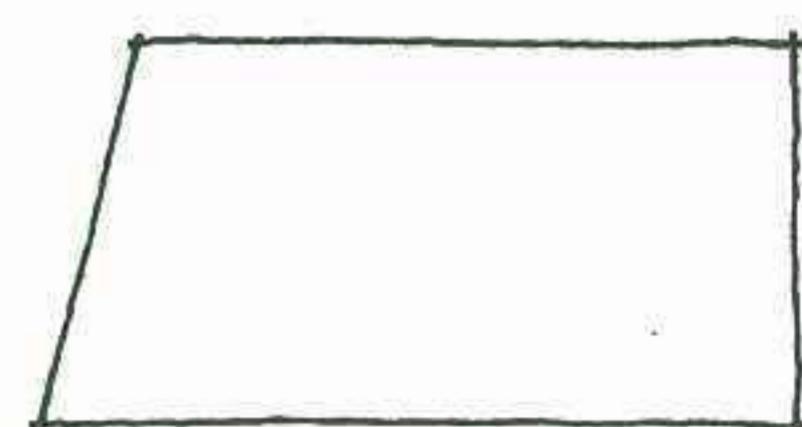
●この印象をこわさない



ガケ



●ガケより充分離す



## キーワード

## 前提条件

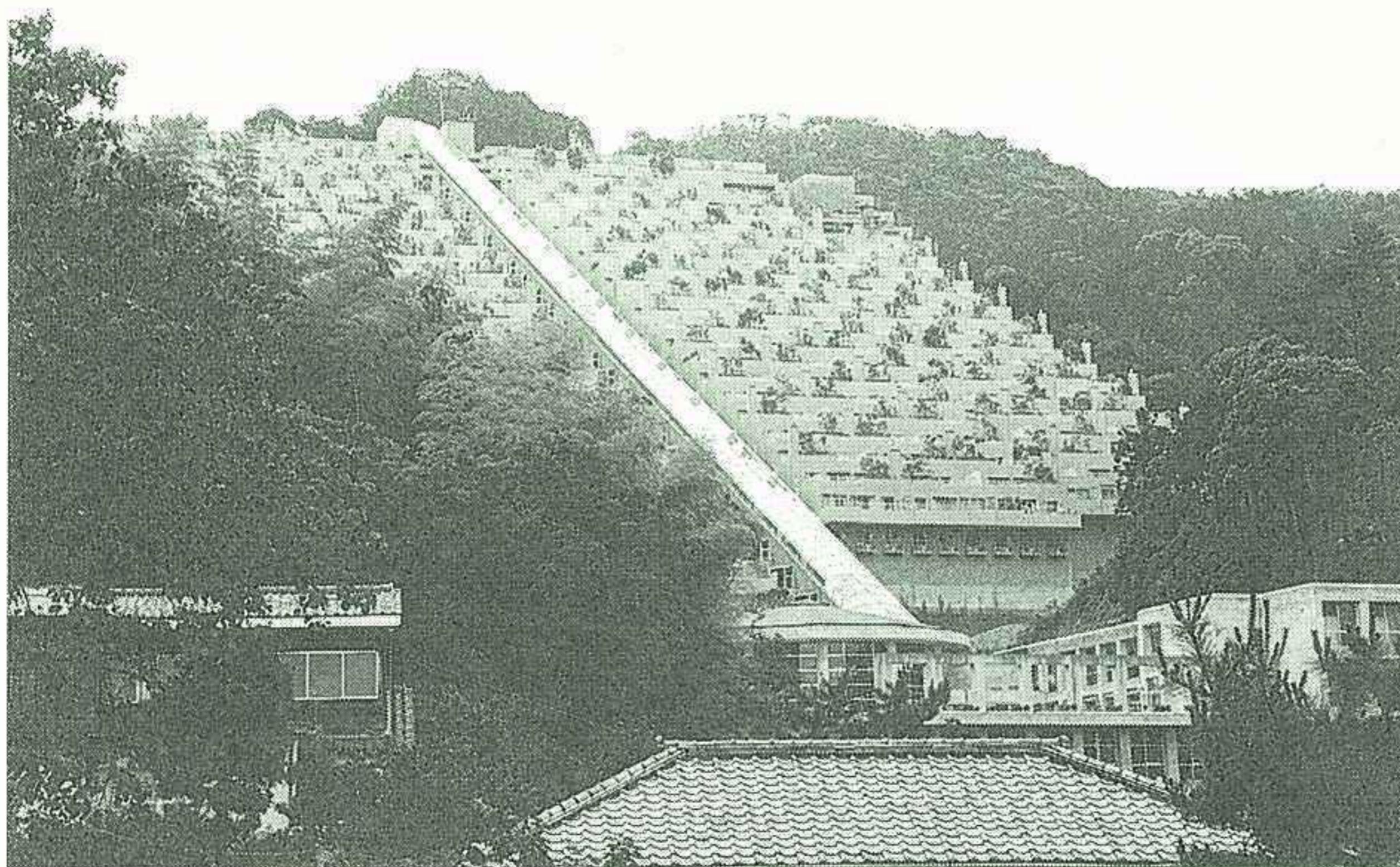
### ○見つけの高さ

真鶴町及び真鶴半島のスケールは海から最高点まで 100m（山側は 600m）足らずのものである。この様なスケールの中では見つけの高さを特に慎重に選ばねばならない。

### ● 2階建と6階建のスケールの比較



### ● いくら斜面に沿っていても、これでは半島の大地がすべて人工物になってしまふ



## 解 決 法

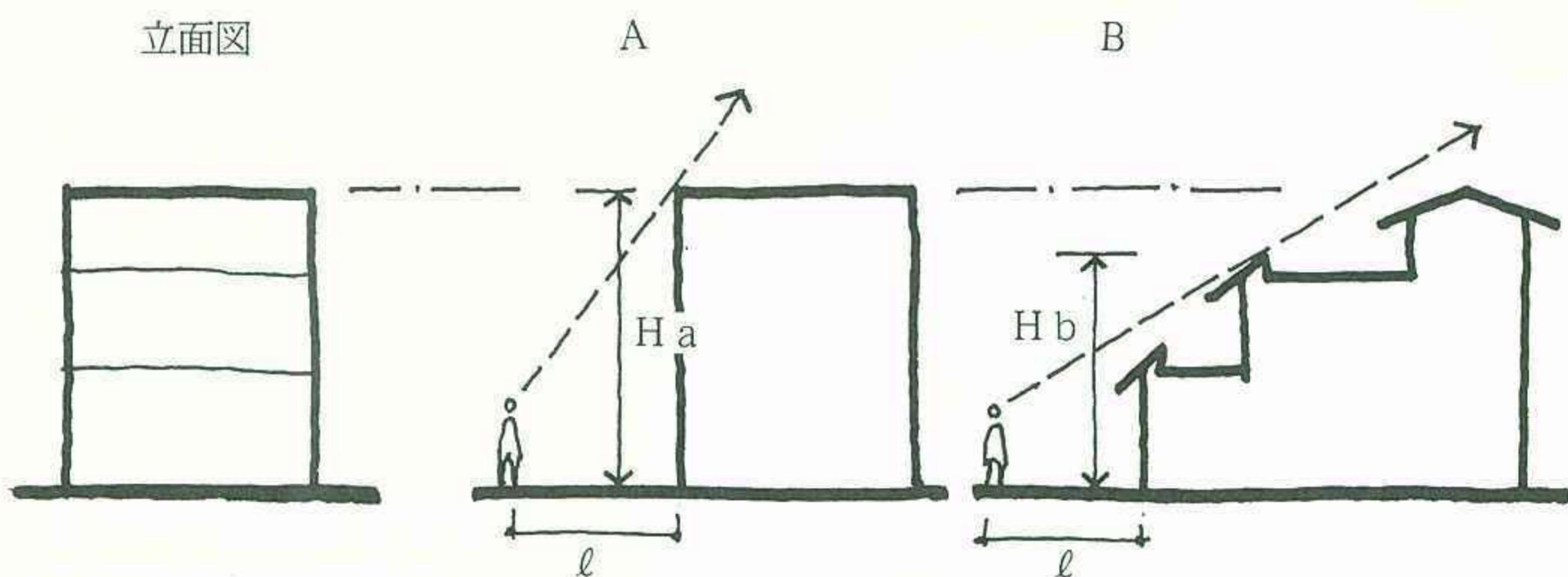
建物の見つけの高さは可能な限り小さくすること。

## 課 題

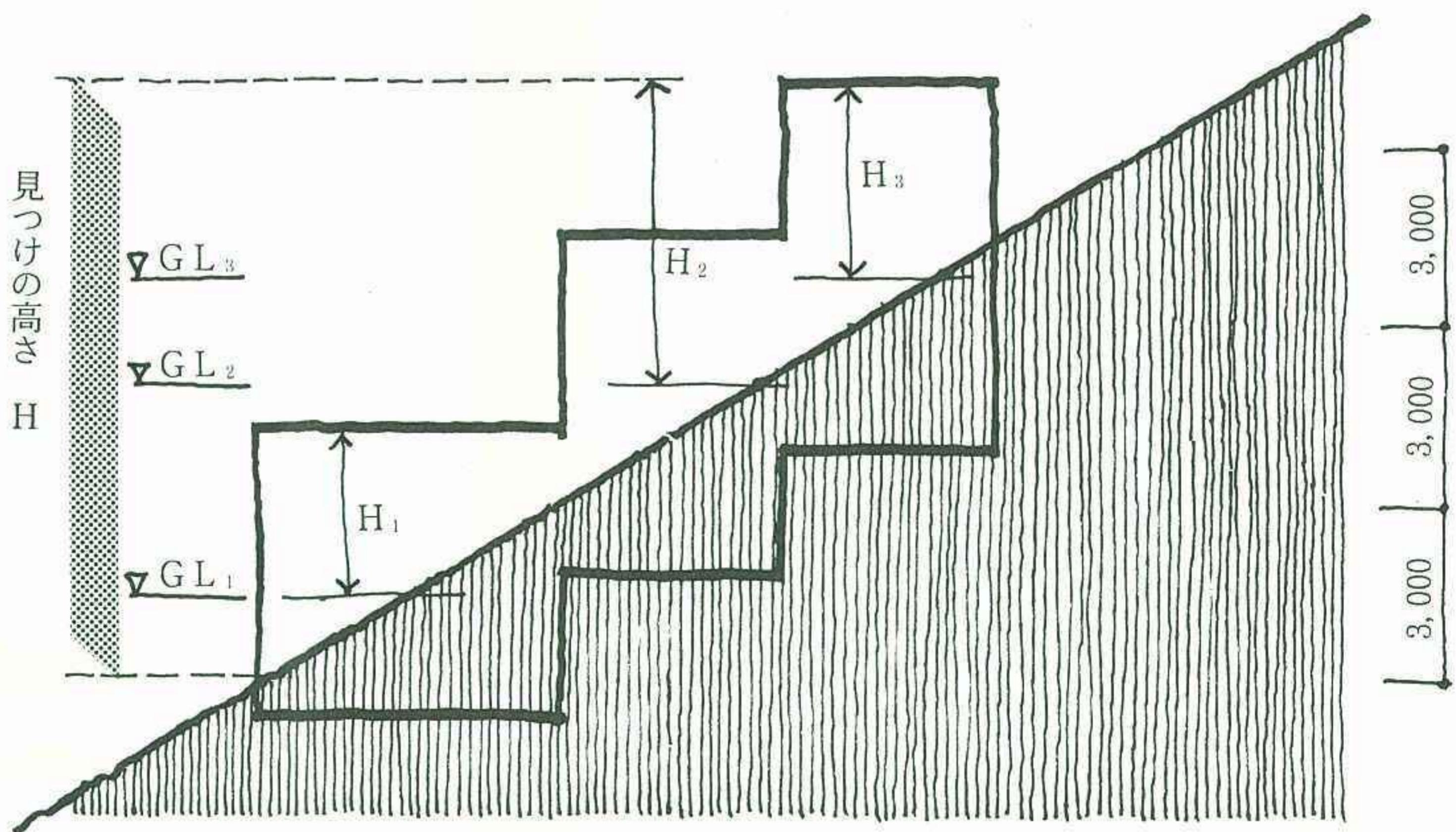
- ・土地利用規制規準

- 感じる高さ、同じ立面でも感じる高さがちがう。

立面図



- 建築基準法上の高さと見つけの高さ



## キーワード

## 前提条件

### ○段階的な 外部の大きさ

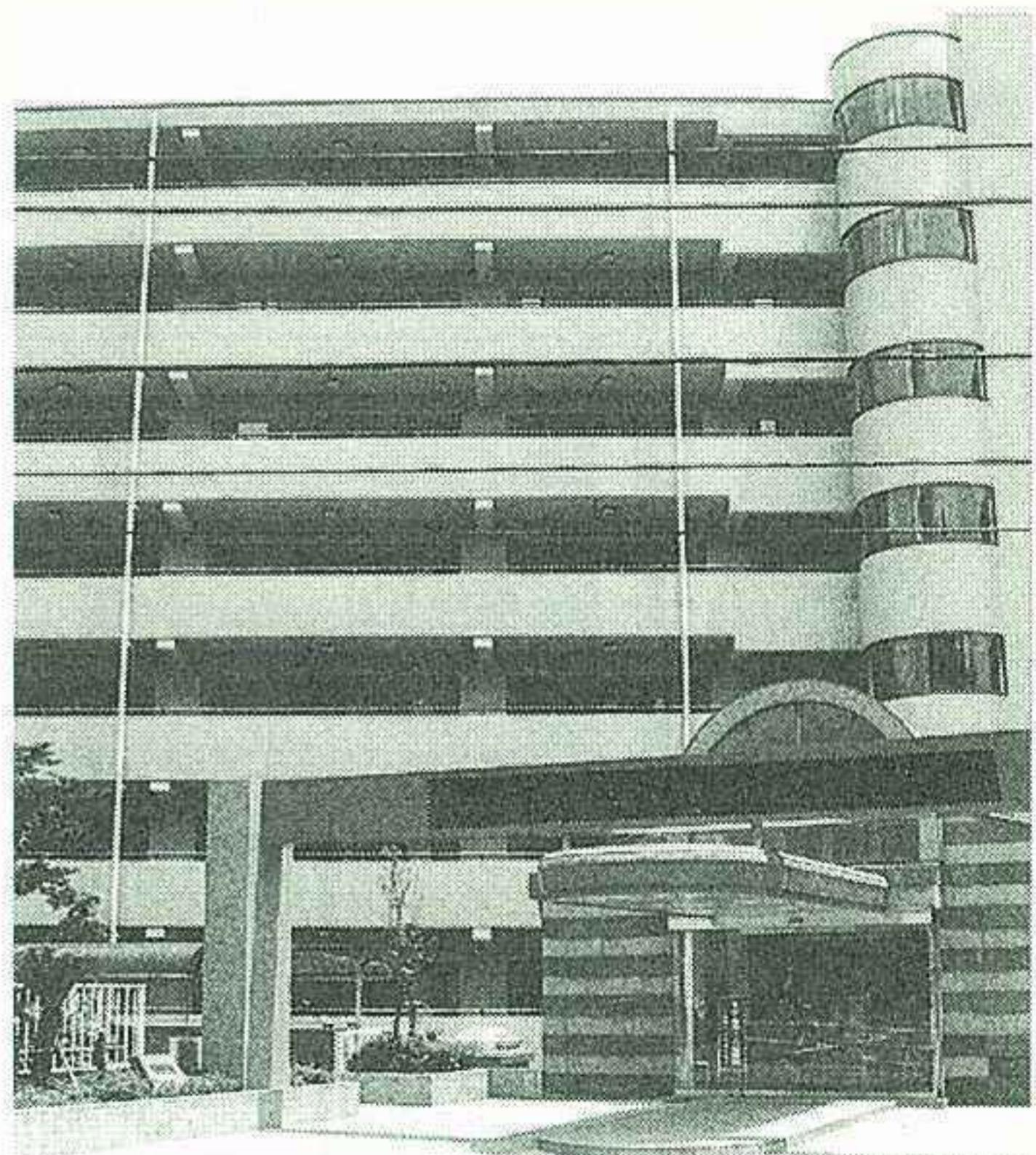
真鶴町にとって自然の尺度のつながりをもつことが、重要である。

建築物、外部空間、公共空間、自然との間に、程好い尺度のつながりがあってこそ、建築物が真鶴の大地に溶け込むことができる。

- 建物前面の小さな建物が、短い導入空間に段階性を持たせている



- 背後の建築物が大きくて、侵入時の段階性が途切れている。

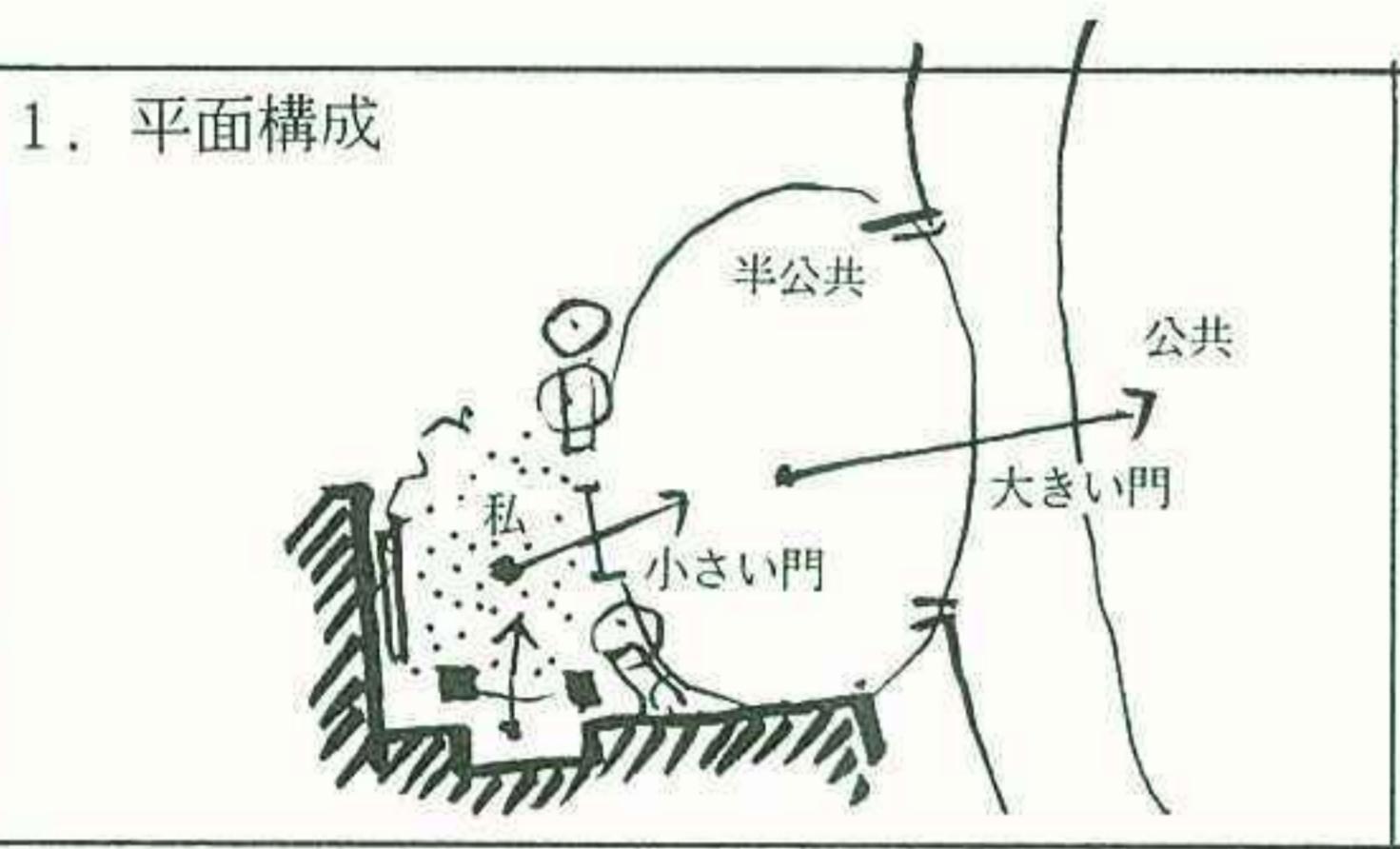


建物の公共空間に面する側、自然の空間に面する側には段階性を持たせること。

建物が外部の大きさと関係しながら自然の中に溶け込むようにしつらえること。

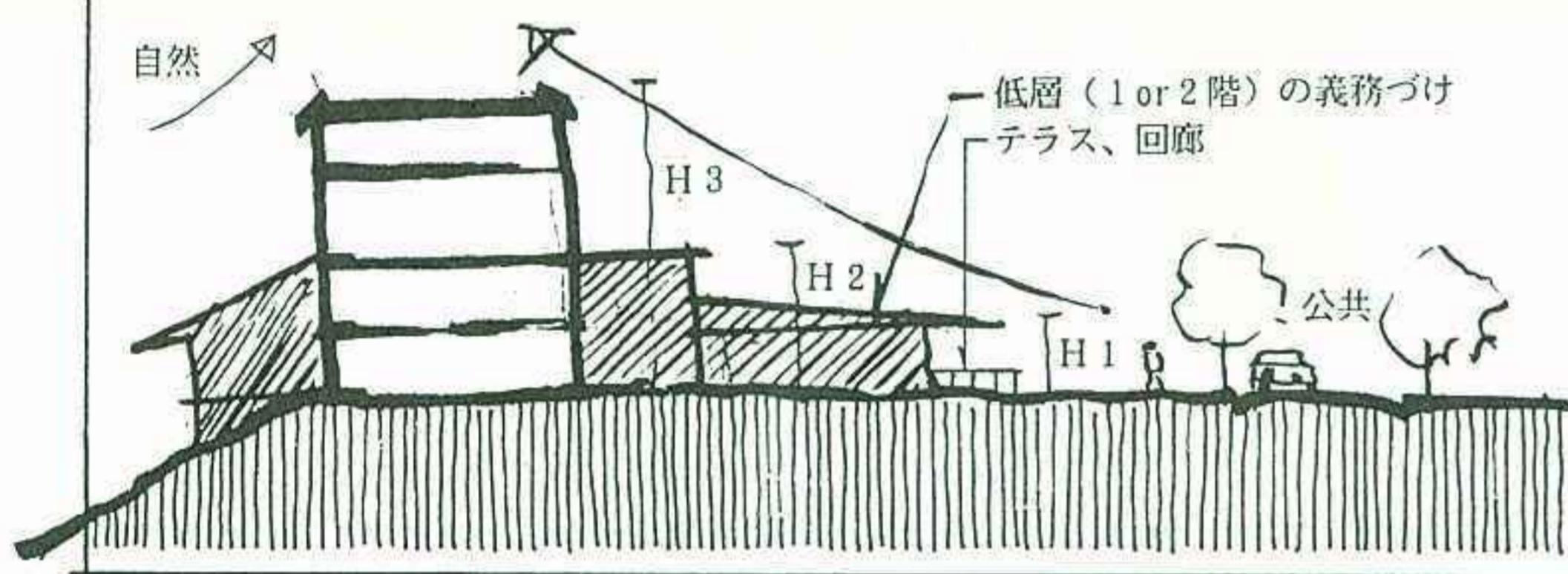
更に、外部空間自体にも小→大と変化する段階性を設け、最後に公共空間と接する部分では、町の人々が自由に入り出でできる公開部分とするといい。

1. 平面構成



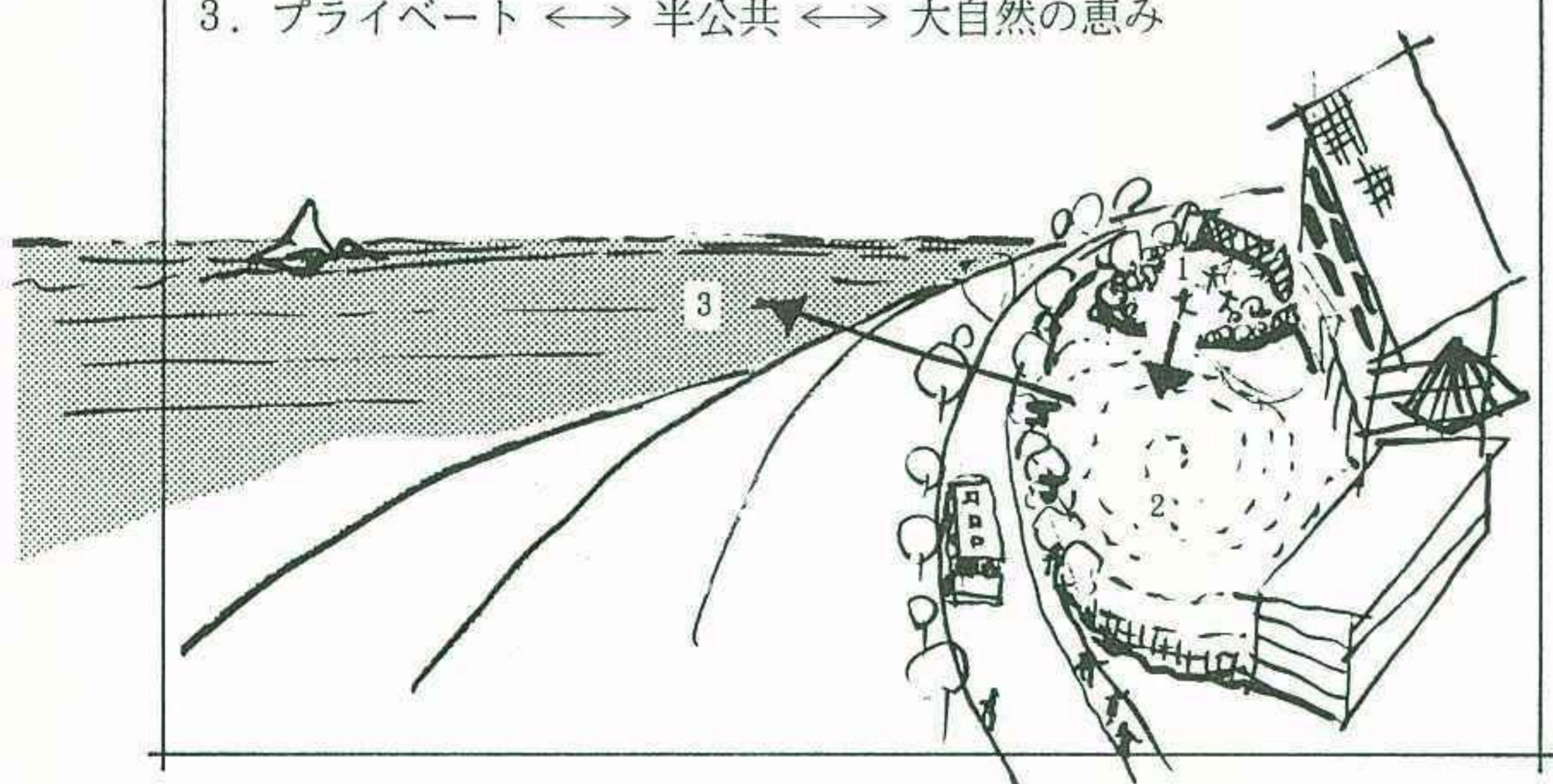
● 公共空間に段階的につながる外部の大きさ

2. 断面構成



● 断面構成に段階性を持つ建築

3. プライベート ← 半公共 ← 大自然の恵み



● 建築物、外部空間、公共空間、自然が段階性を持って展開開して行く建築構成

## キーワード

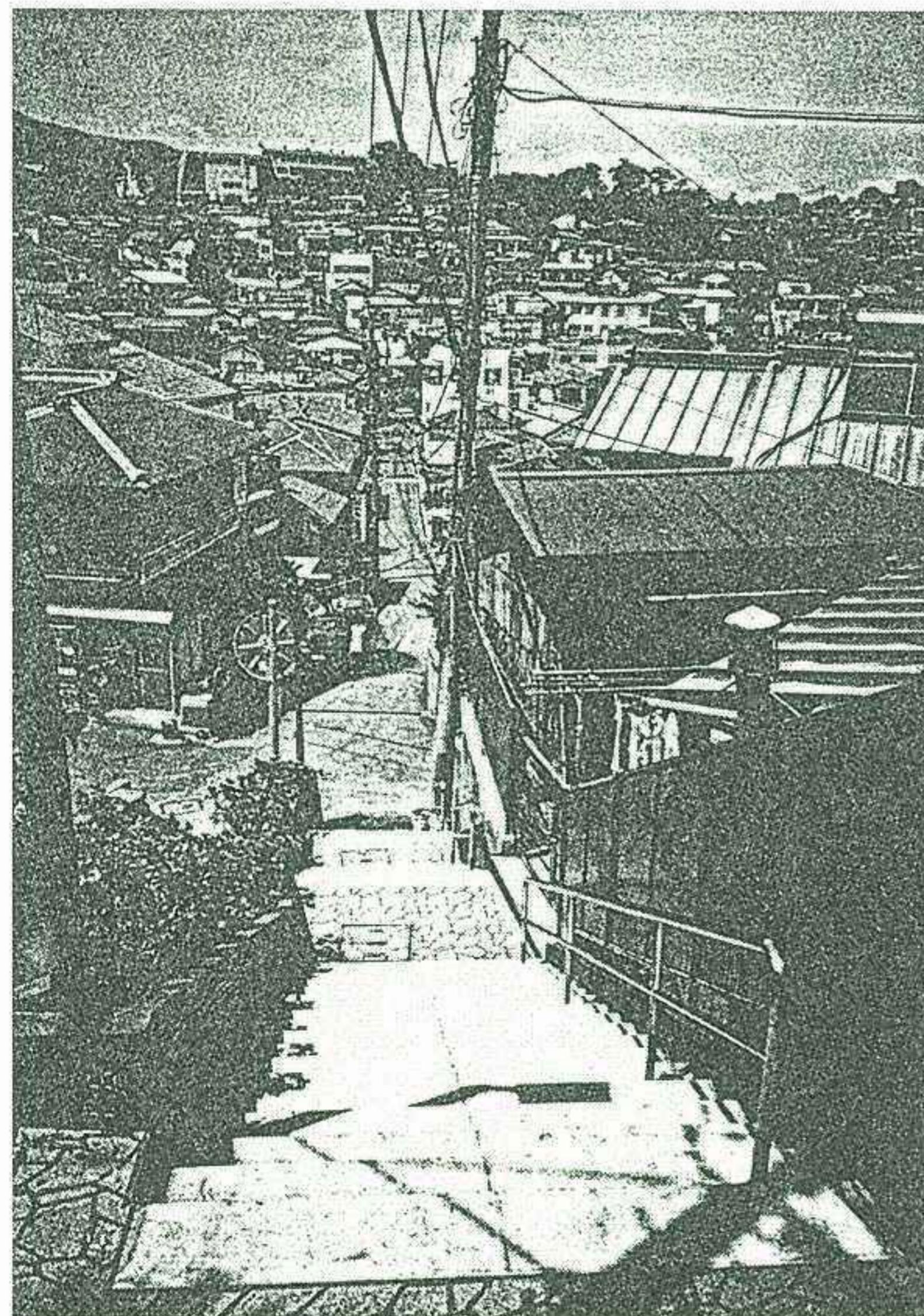
## 前提条件

### ○路地とのつながり

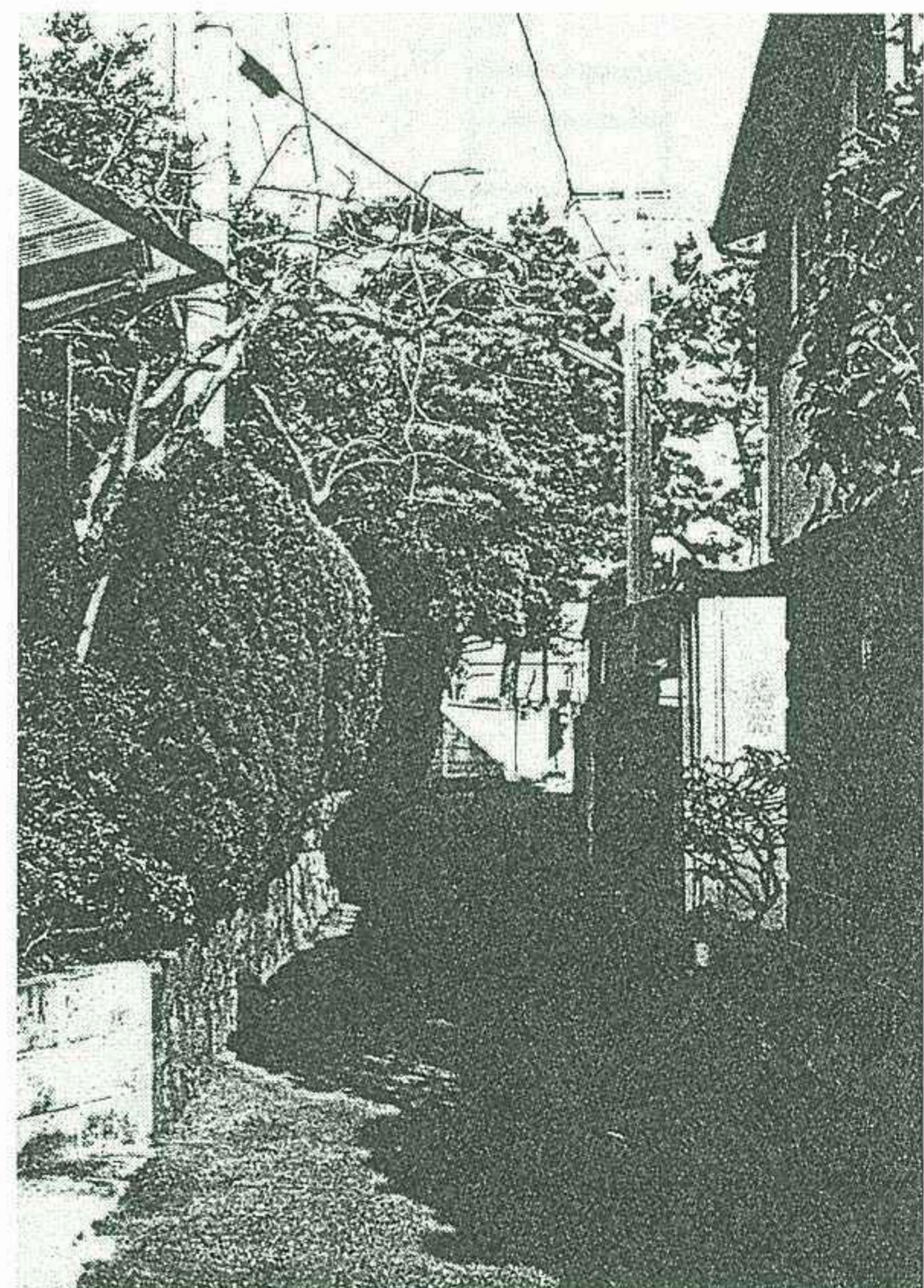
どの町にもある路地は、その町の人々の生活を直接見せてくれる。

真鶴町も例外でなく、両手をひろげた位の空間に、程好い尺度の「美」が生きている。だれでも路地を歩いて楽しいと感じるのは、人々の自然な「遠慮」が存在しているからだろう。

●真鶴町は階段を含んだ路地が美しい

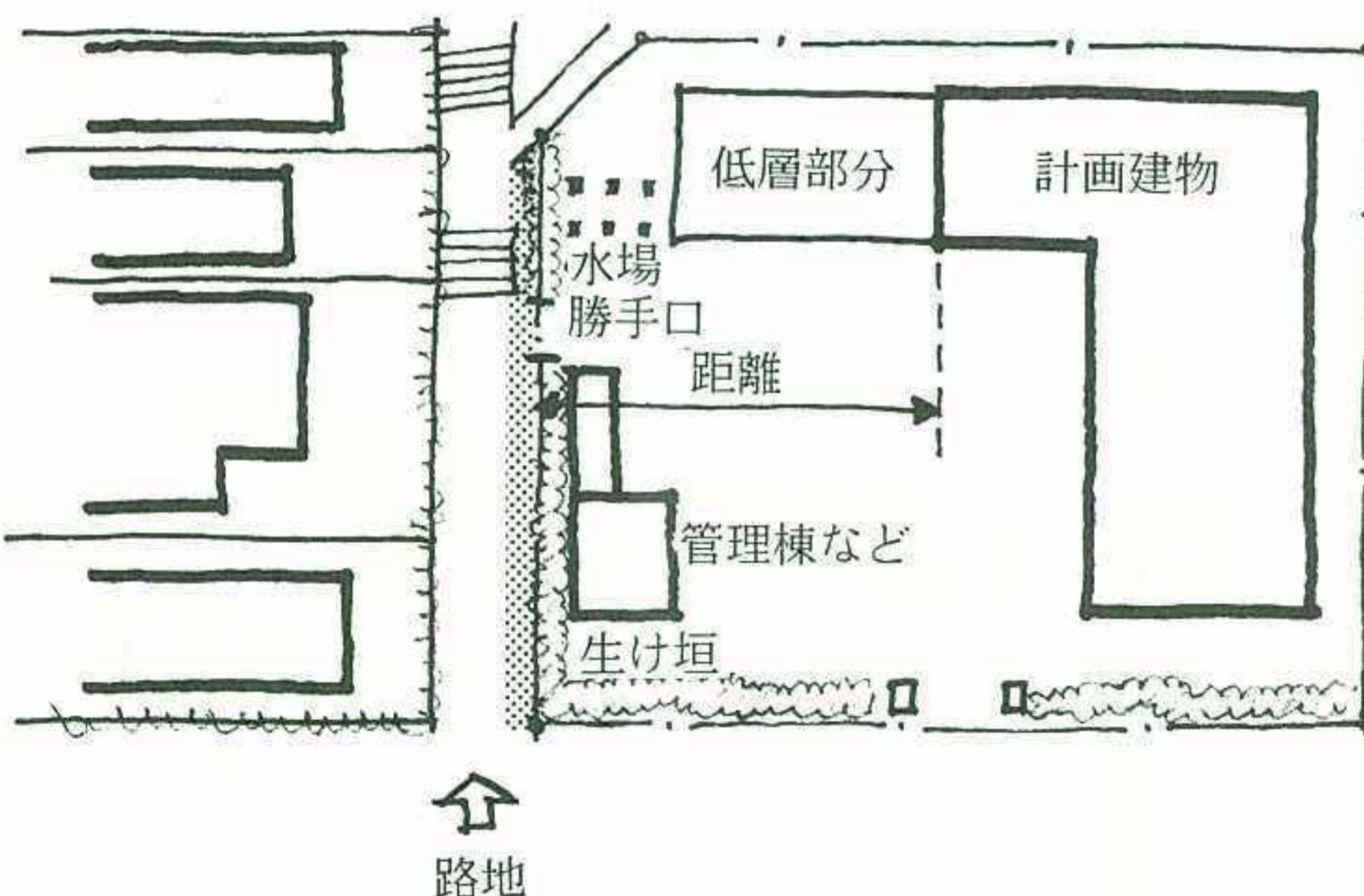


●真鶴町にある静かな路地

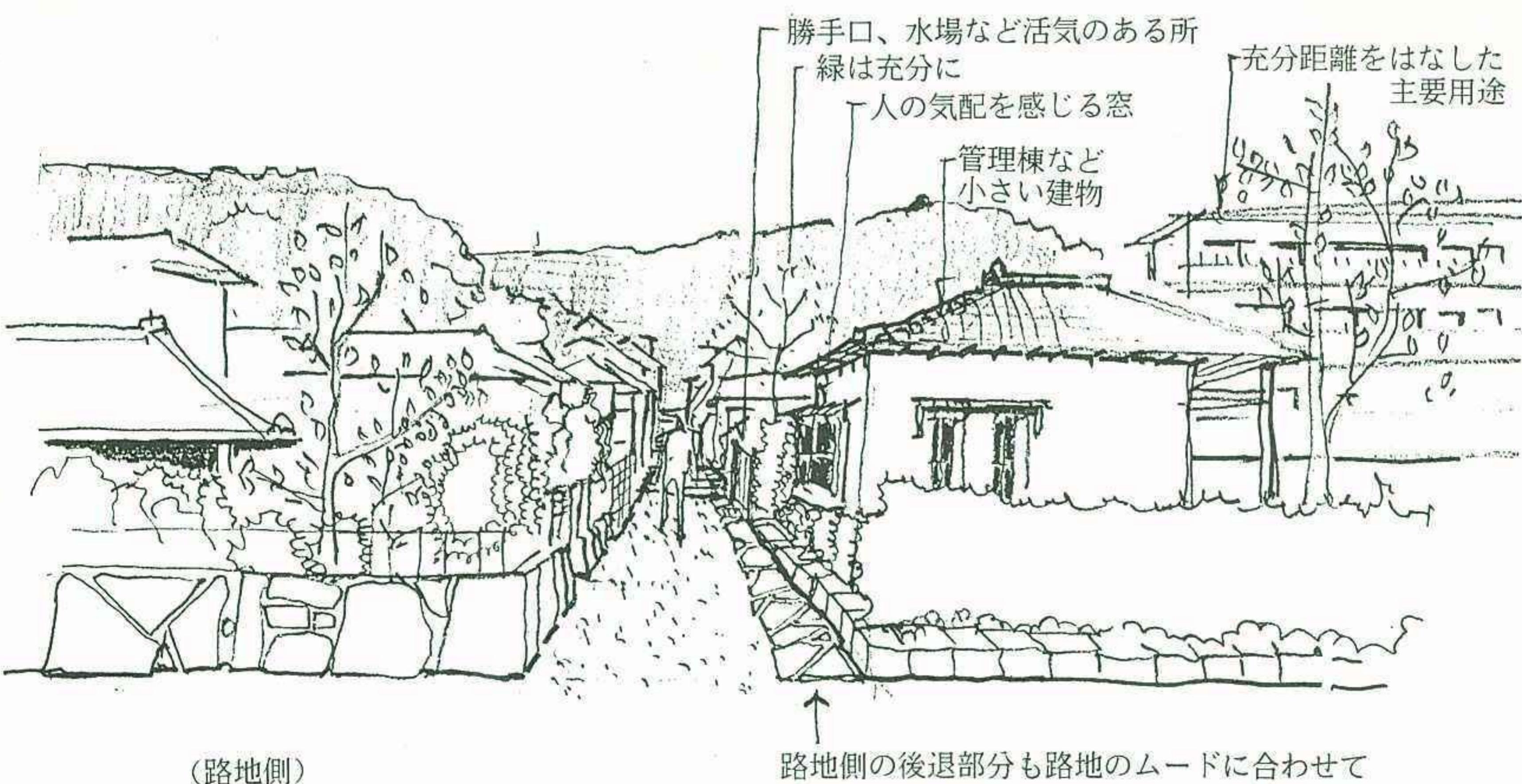


路地の雰囲気を死んだものにしないよう計画すること。  
大きさが路地を支配しないように、冷たい材料が、人の感情を傷つけないように路地に接する敷地の部分はなるべく人気のあるような機能を配して、楽しい世間話ができる様にすると良い。

### ●大きな計画建物が路地と接する場合の例



### ●路地と建物とが接する部分の例



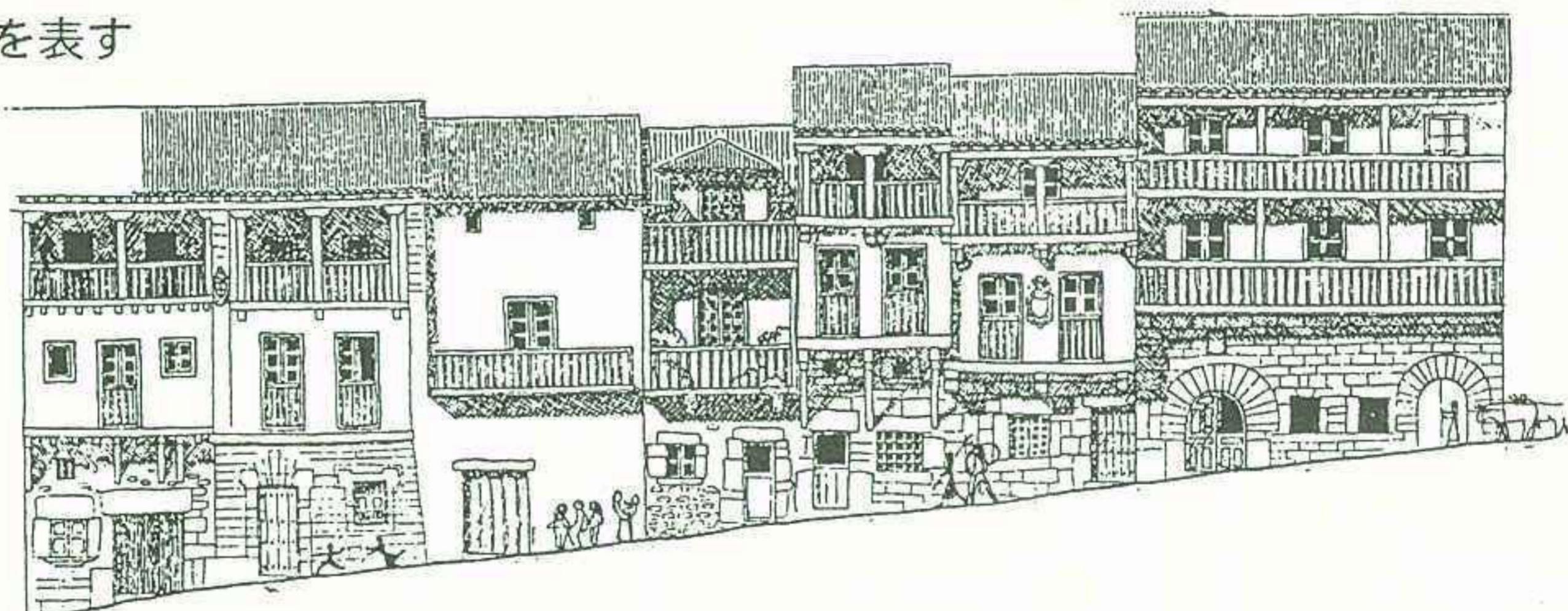
## キーワード

## 前提条件

### ○重なる細部

建物はより小さな建物やより小さな部分で、そこに内在する生活実態を表明しない限り、人間的な建物になり得ない。

#### ●各部が生活実態を表す



#### ●細部が組み合わさって型ができる



#### ●小さな尺度が親しみやすい



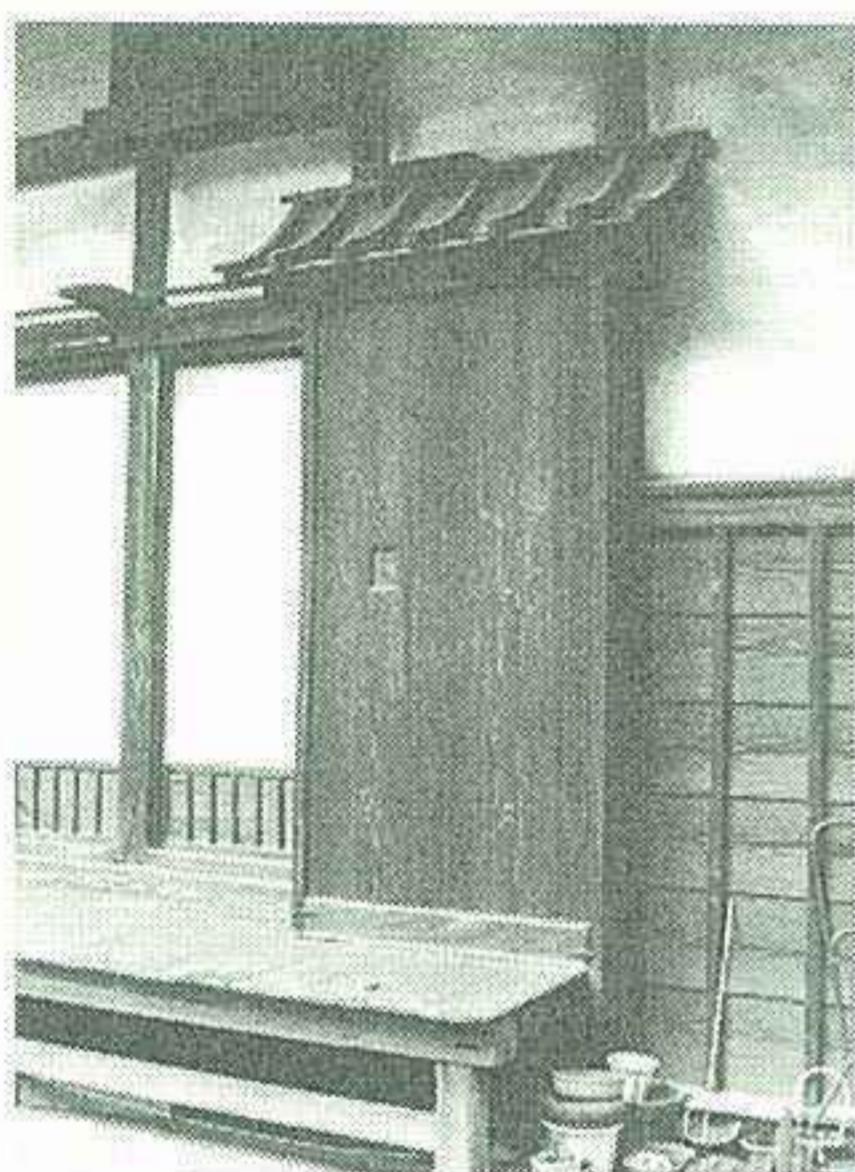
## 解 決 法

決して一枚岩的な大きな建物を作らないこと。できれば建物の各部が現実の生活実態を表明する複合建物になるよう計画を修正すること。

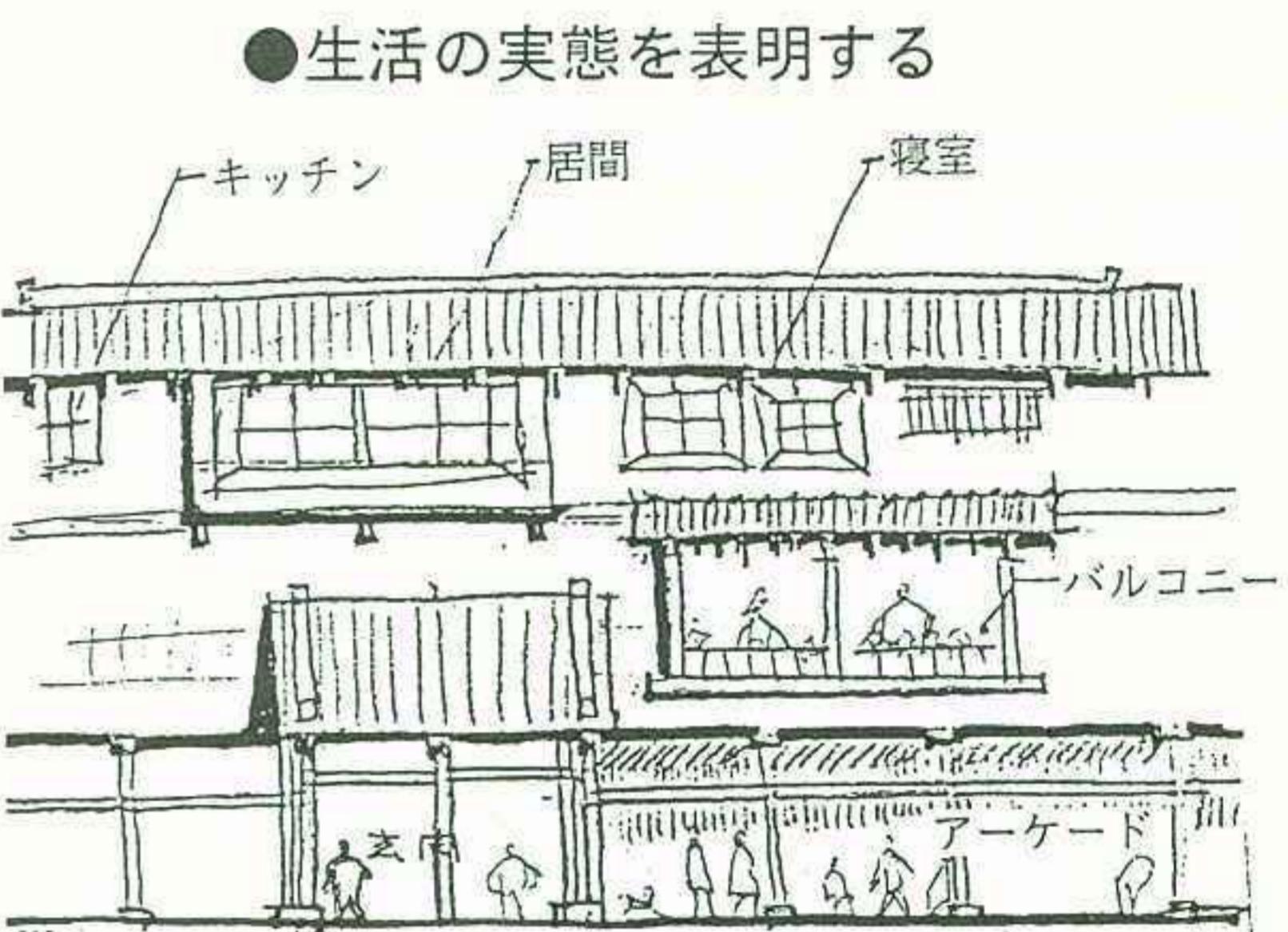
## 課 題

- ・真鶴ブランド作り
- ・共通の部品の開発  
(柱、敷石)

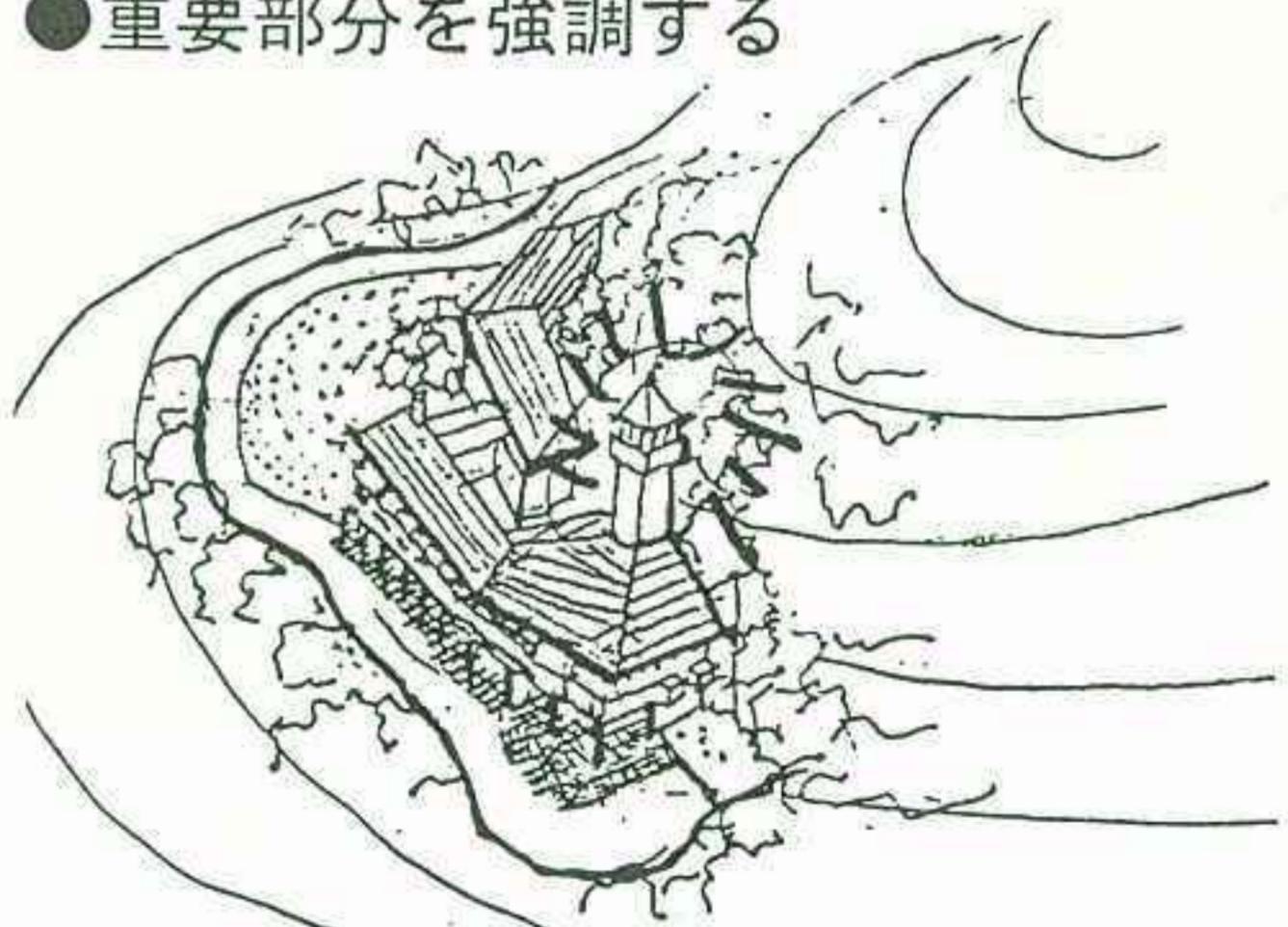
- 各階の表現（デザイン）を変える
- より小さな部分の集合を表現する
- 歴史風土を表現する



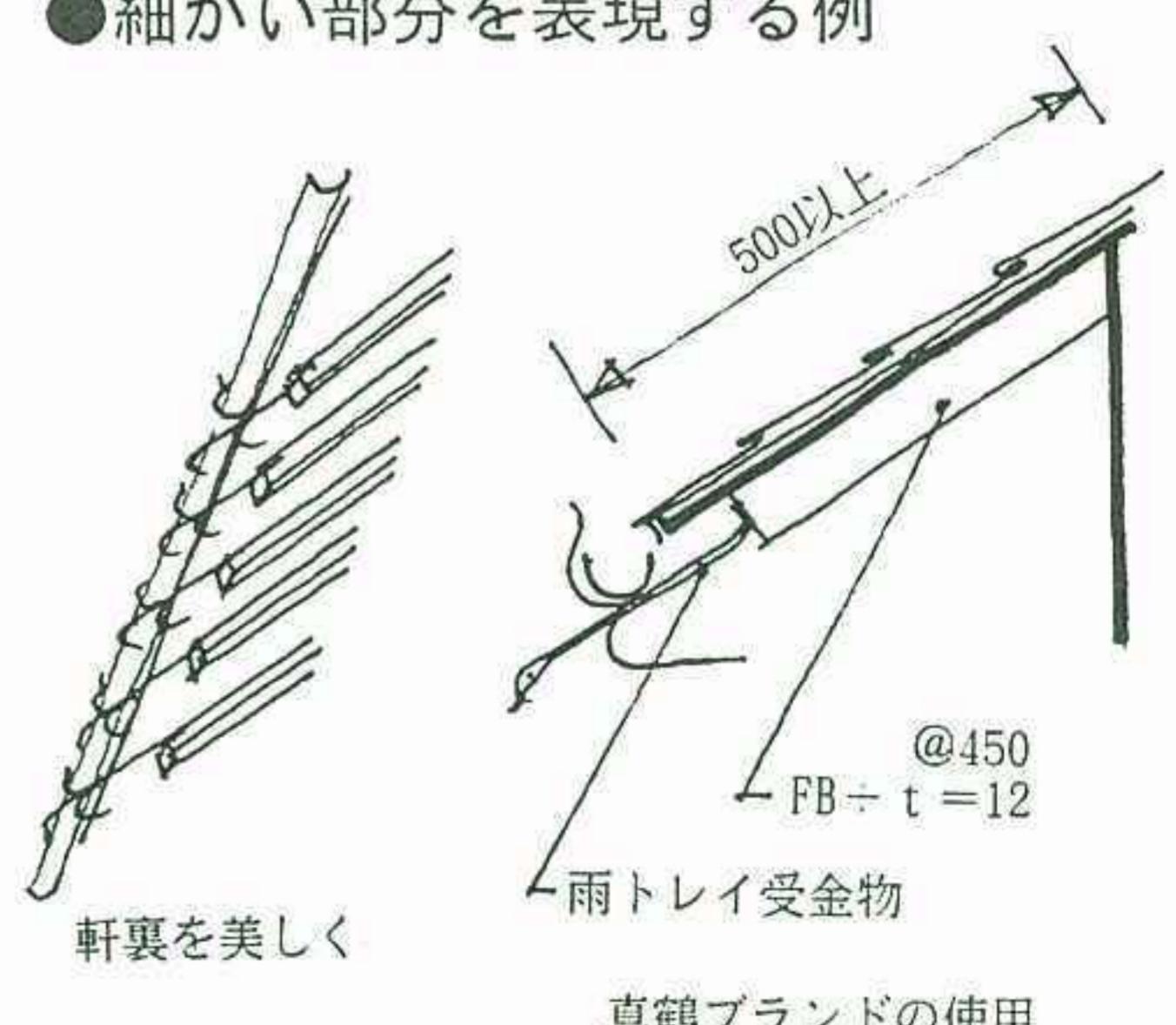
- 組積造、RC造でも細部の表現は可能である



- 重要部分を強調する



- 細かい部分を表現する例



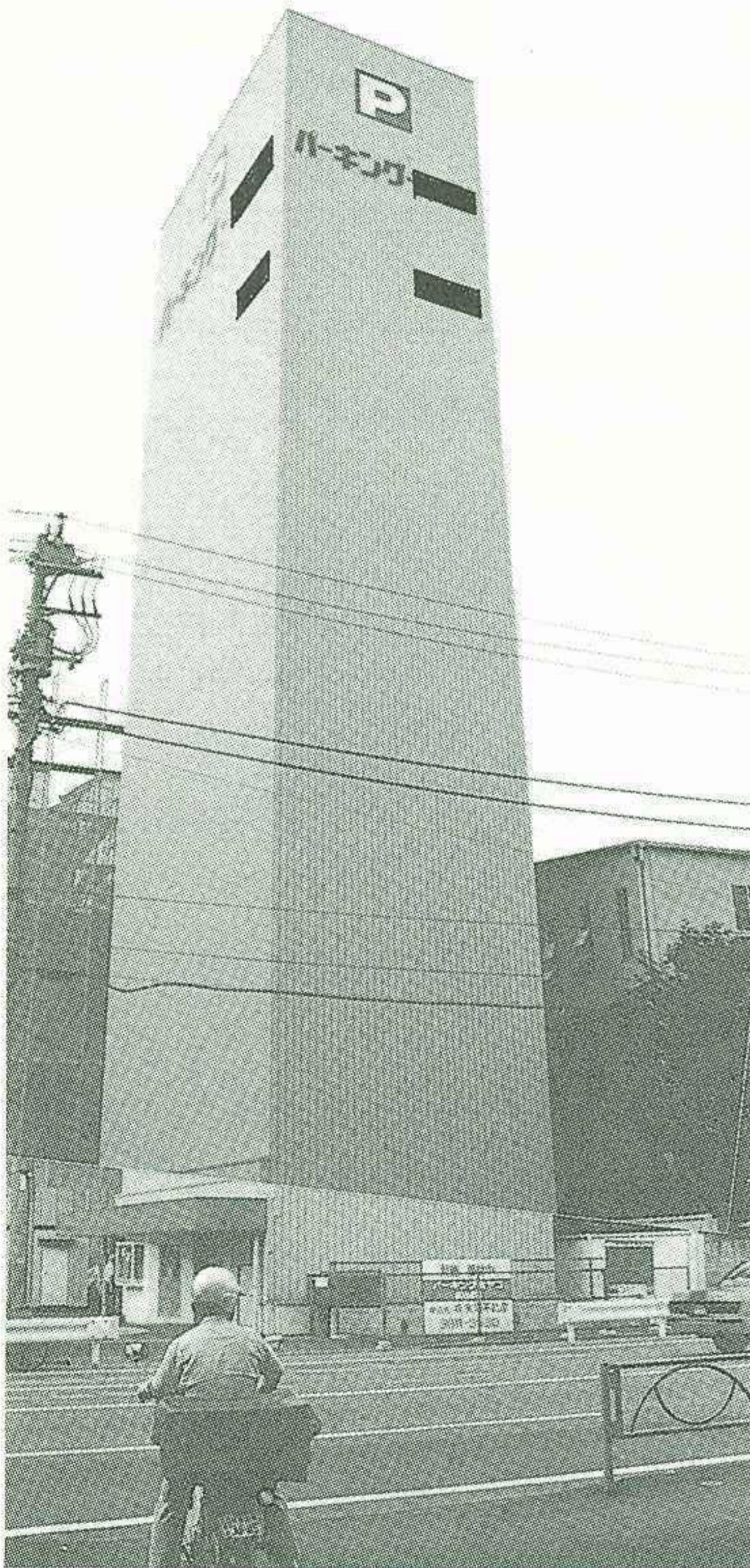
## キーワード

## 前提条件

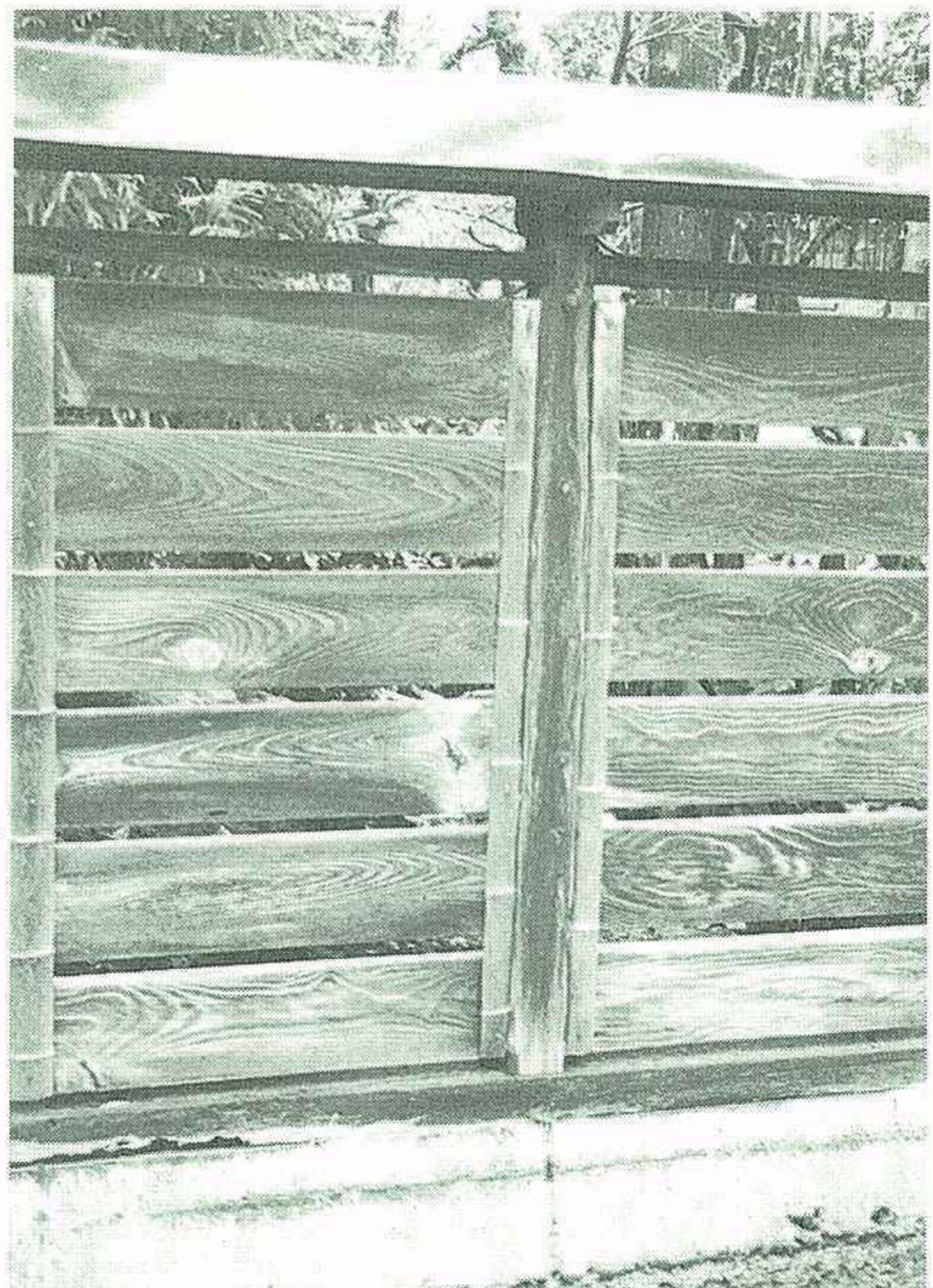
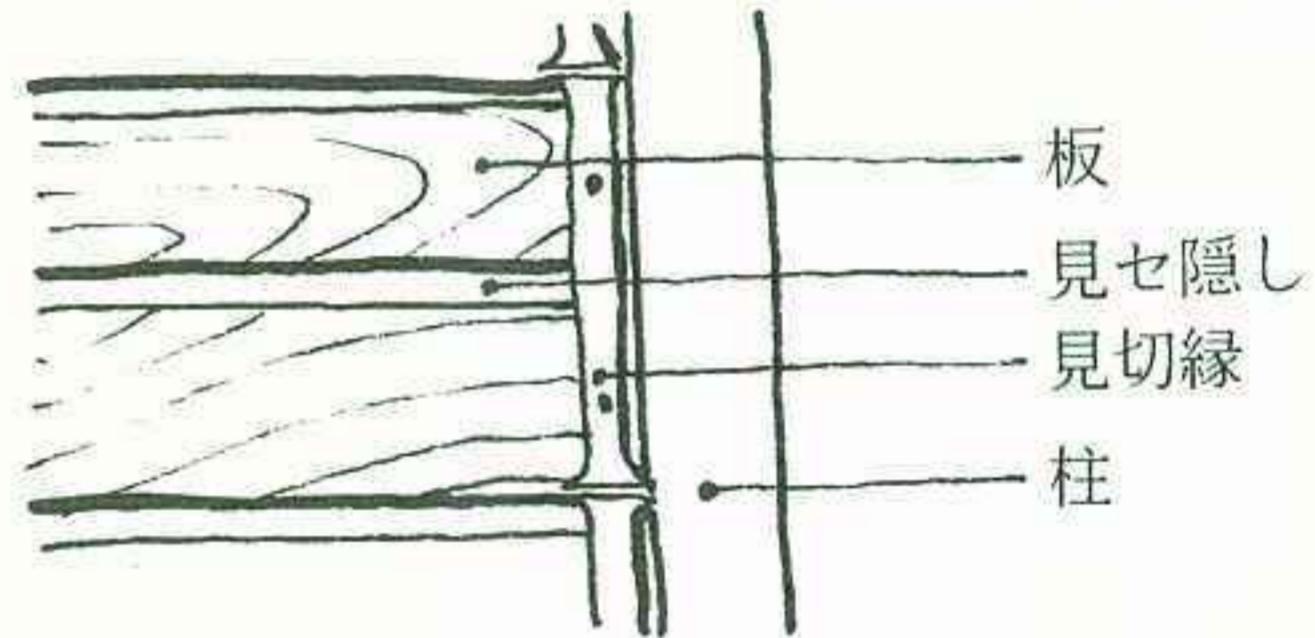
### ○部材の接点

異なる部材が出会う箇所が唐突だと尺度のつながりが生まれずそれが独立した個別のものになってしまう。その結果、建物全体がばらばらなモザイクの様になる。

- 部材の接点も、段階的尺度の広がりもないままに、どこまでも伸び続ける高層建築物



- こんな板垣さえ小さな部材の接点で構成すると美しい

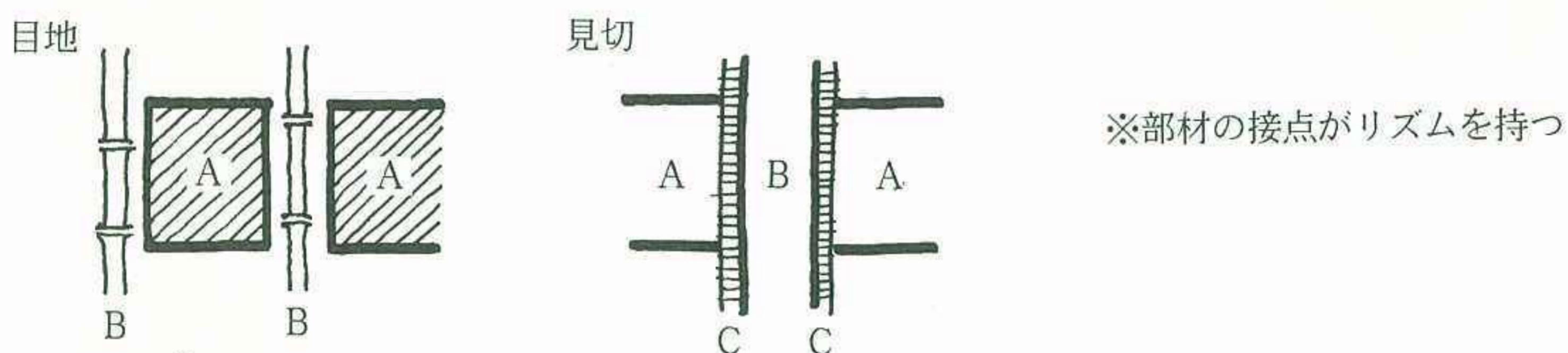


## 解 決 法

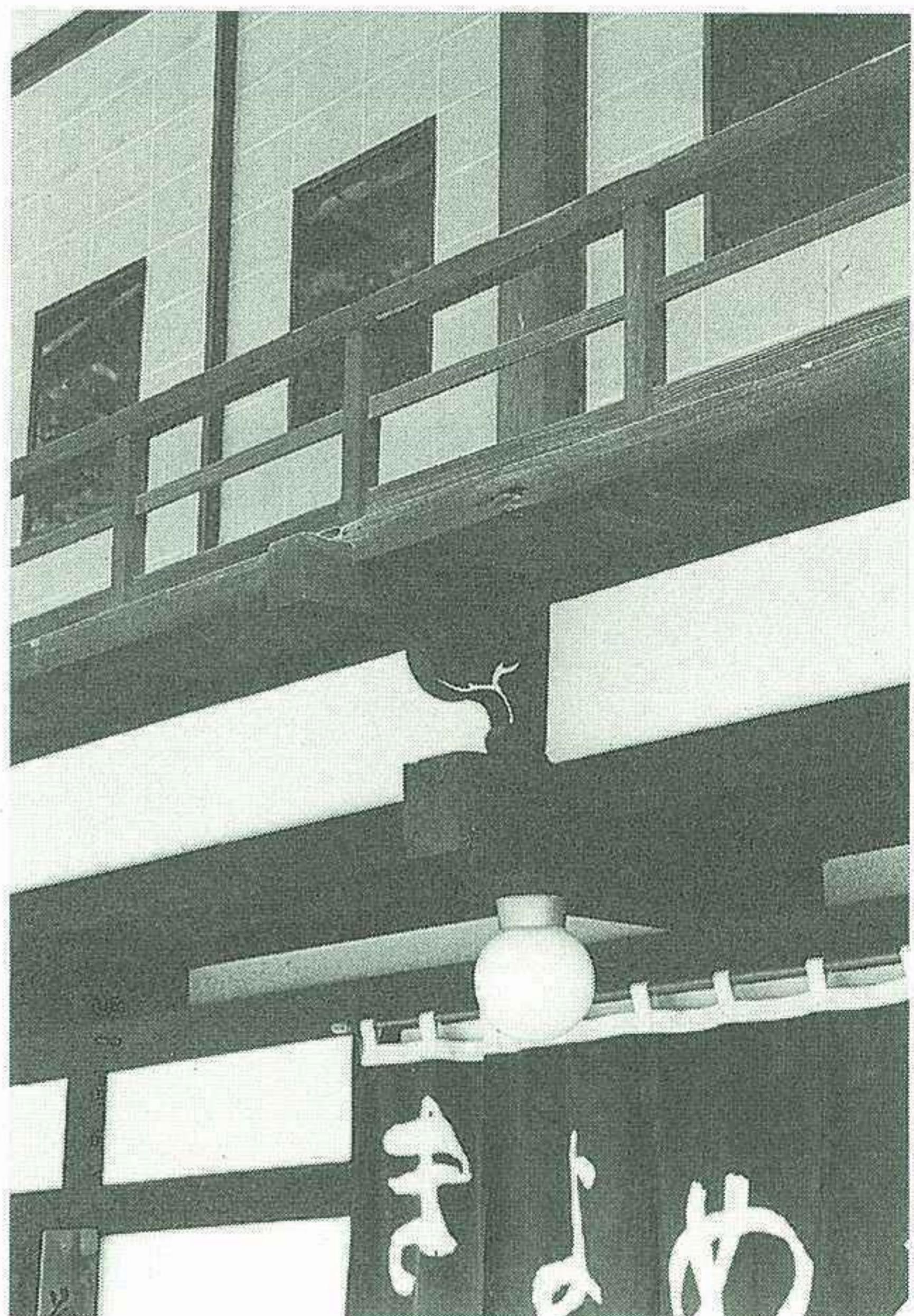
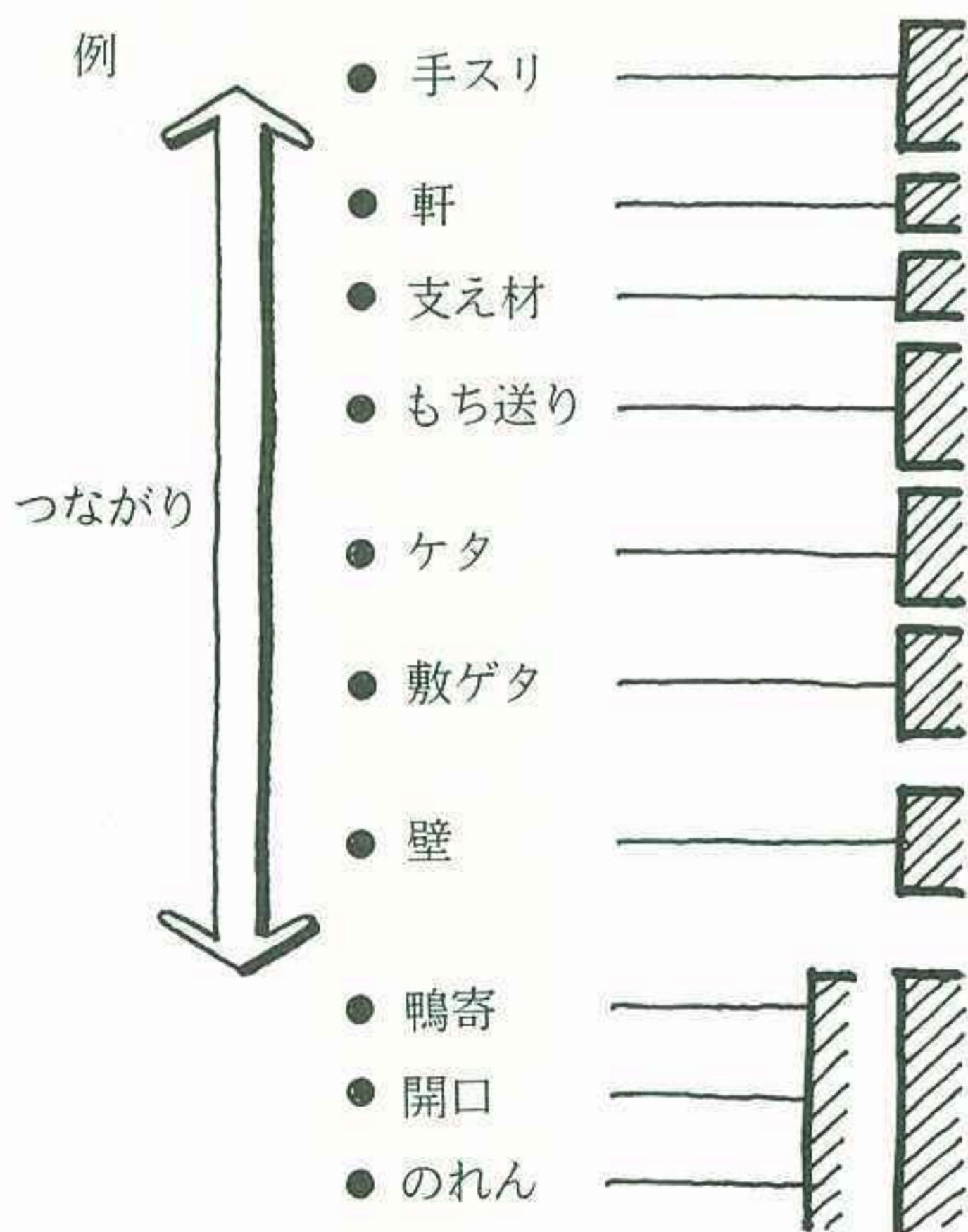
## 課 題

柱と梁、壁と天井の様な異なる部分又は異なった部材同士が接する部分には小さい部材を用意して先の二つにつながりを持たせて行くと良い。

- 部材の継目（シーム）に留意して尺度の段階的広がりを補完する材料を付加していく



- 用途毎、部材毎に補完部材をいれてつながる尺度、建築物が段階的に尺度の広がりを形成していく。



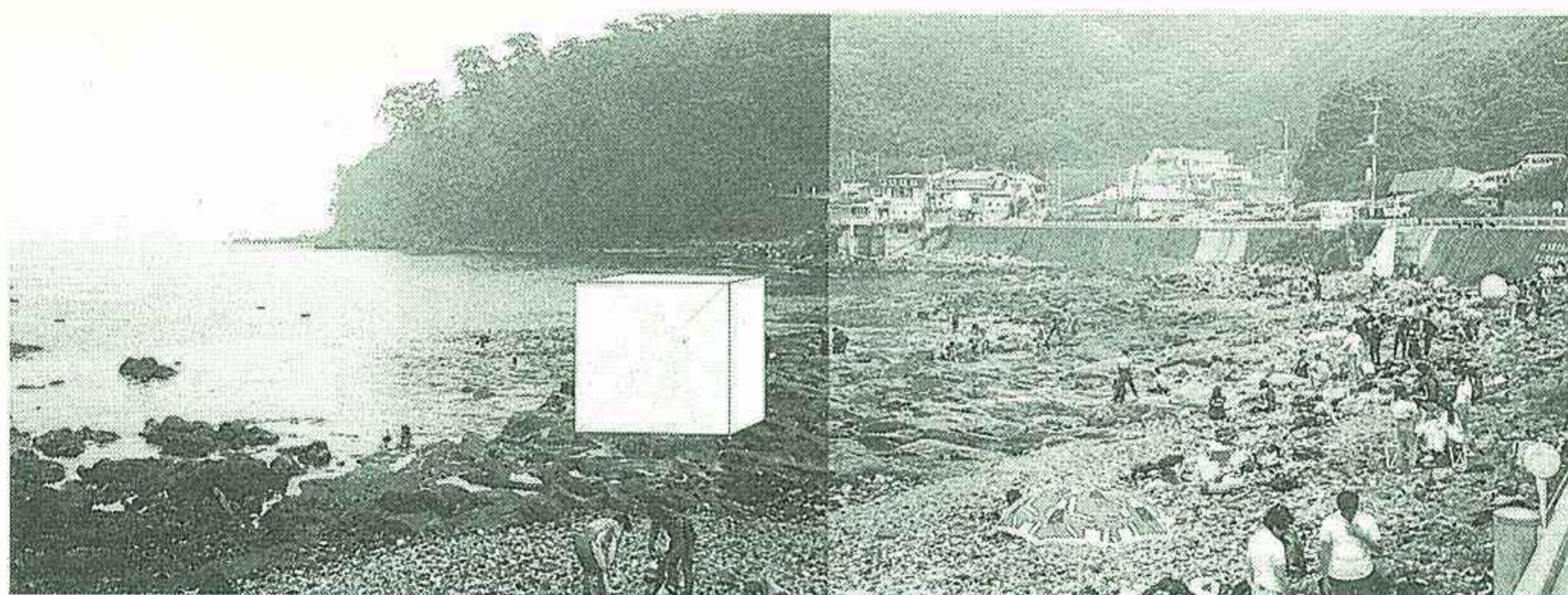
## キーワード

## 前提条件

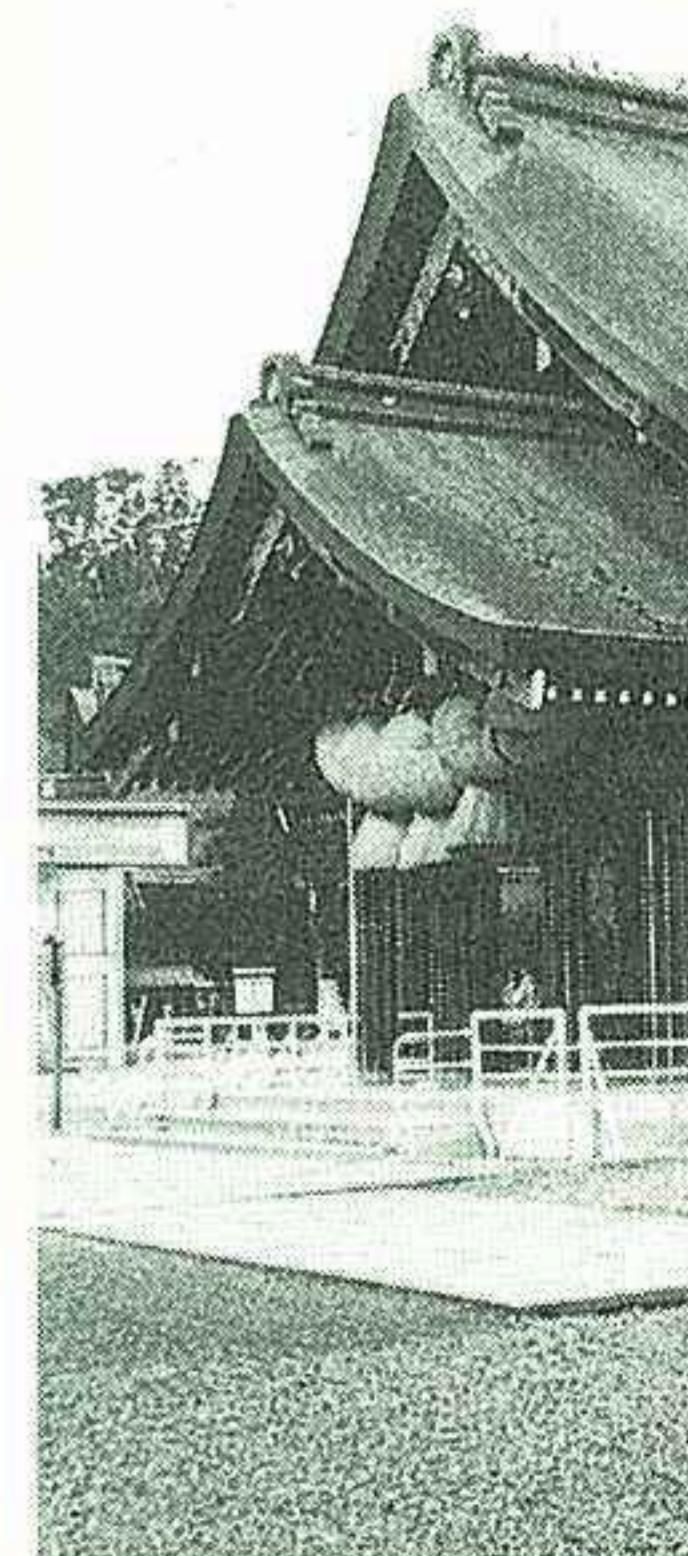
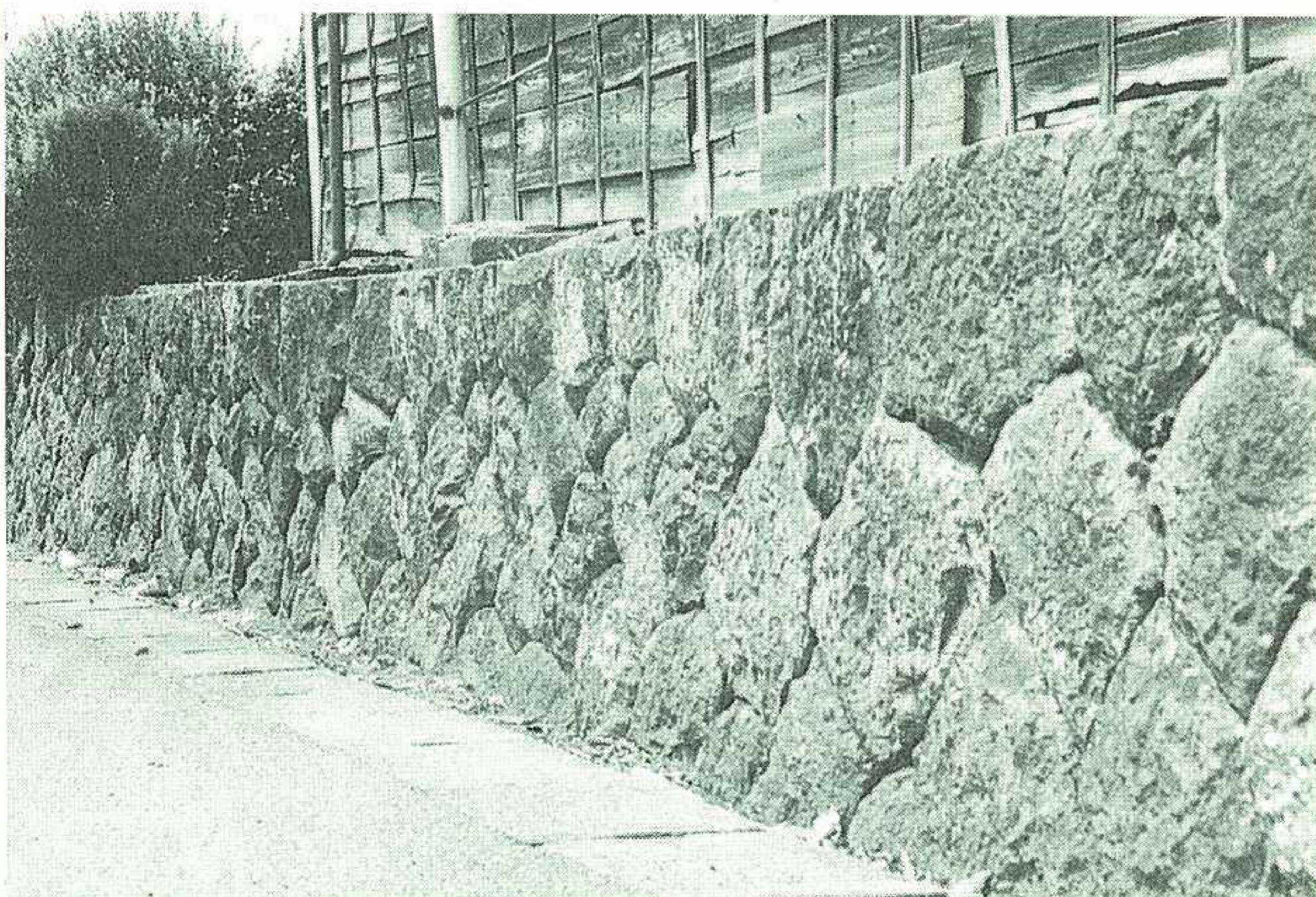
### ○終わりの所

現代建築の端部（屋根壁等）が他の何とも関係を持たない終わり方をしている姿は自然と建物との関わり合いに寄与していない。

#### ●自然の尺度と無関係な造形



#### ●壁が大地と触れる

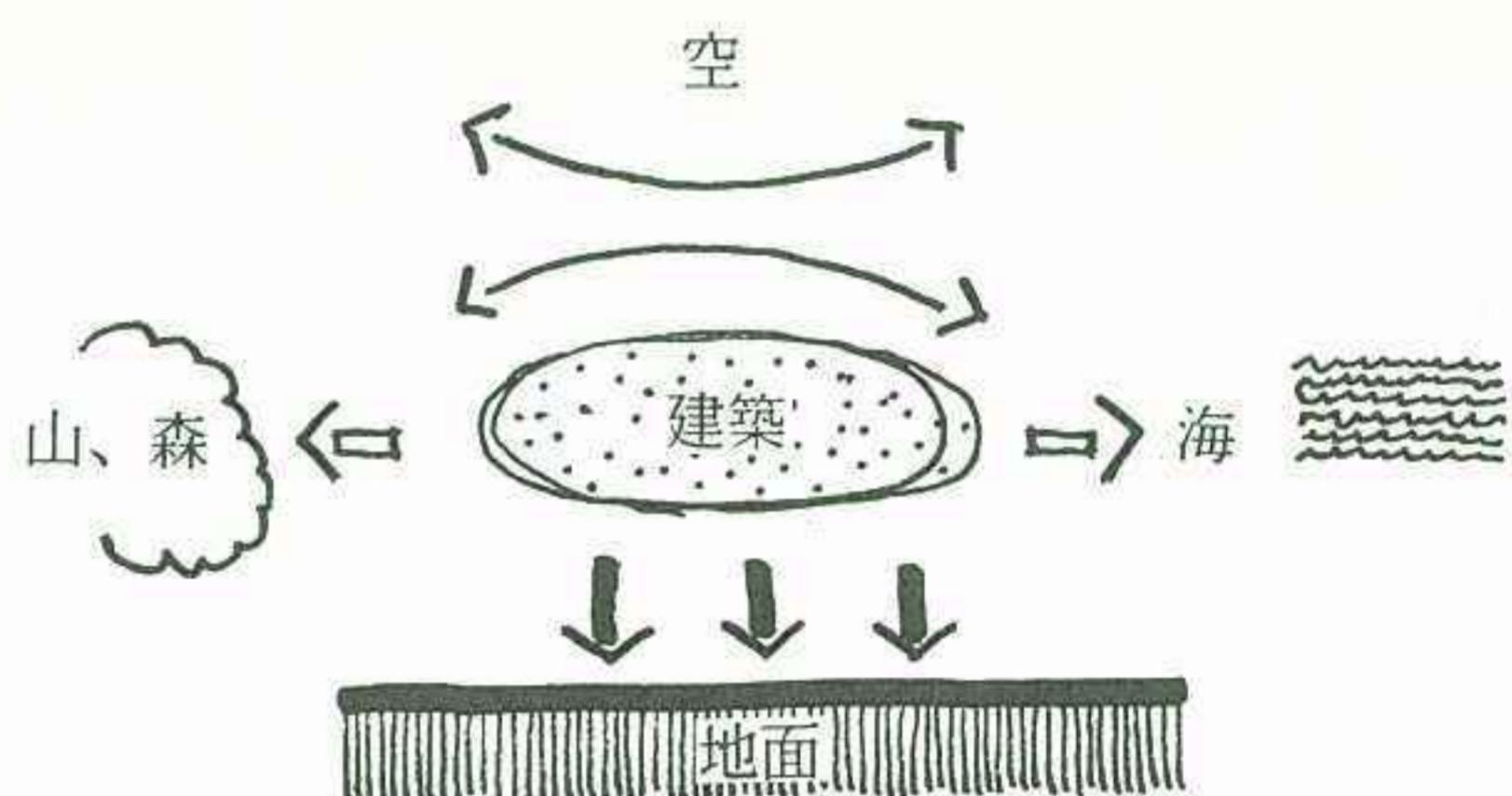


建築が終わる所、例えば屋根の傾斜が地面に出会う所、屋根の頂部が空と出会う所等々、終わりが自然に溶け込む部分は特に注意してやわらかいつながりが保たれるようになると良い。

●柱が力づよく地面に出会う



●自然と出会う所は強調したり  
また曖昧にしたりして、柔ら  
かいつながりができるように



●屋根の終わりが大地と呼び合う



●屋根の終わりが空と出会う



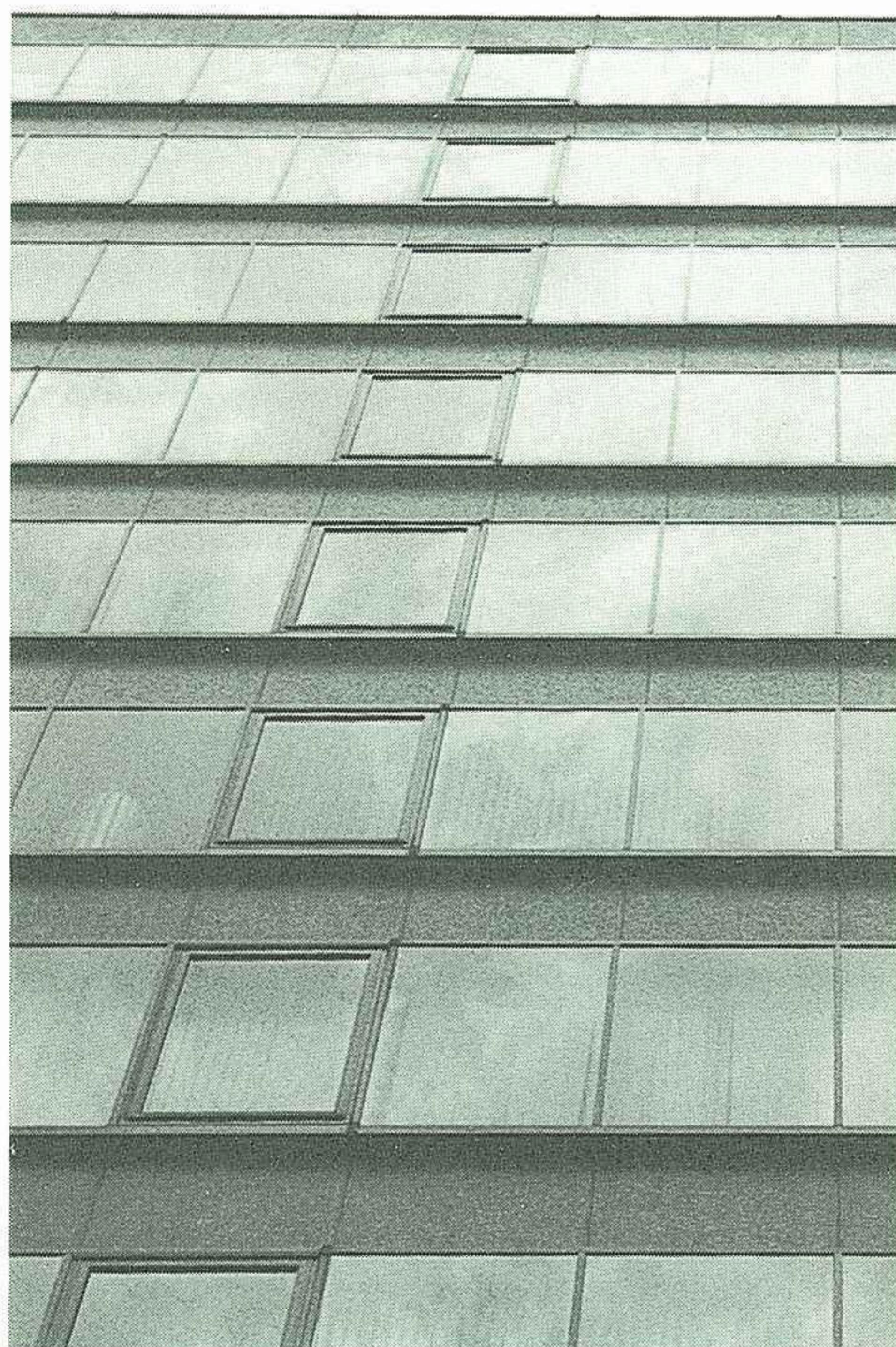
## キーワード

## 前提条件

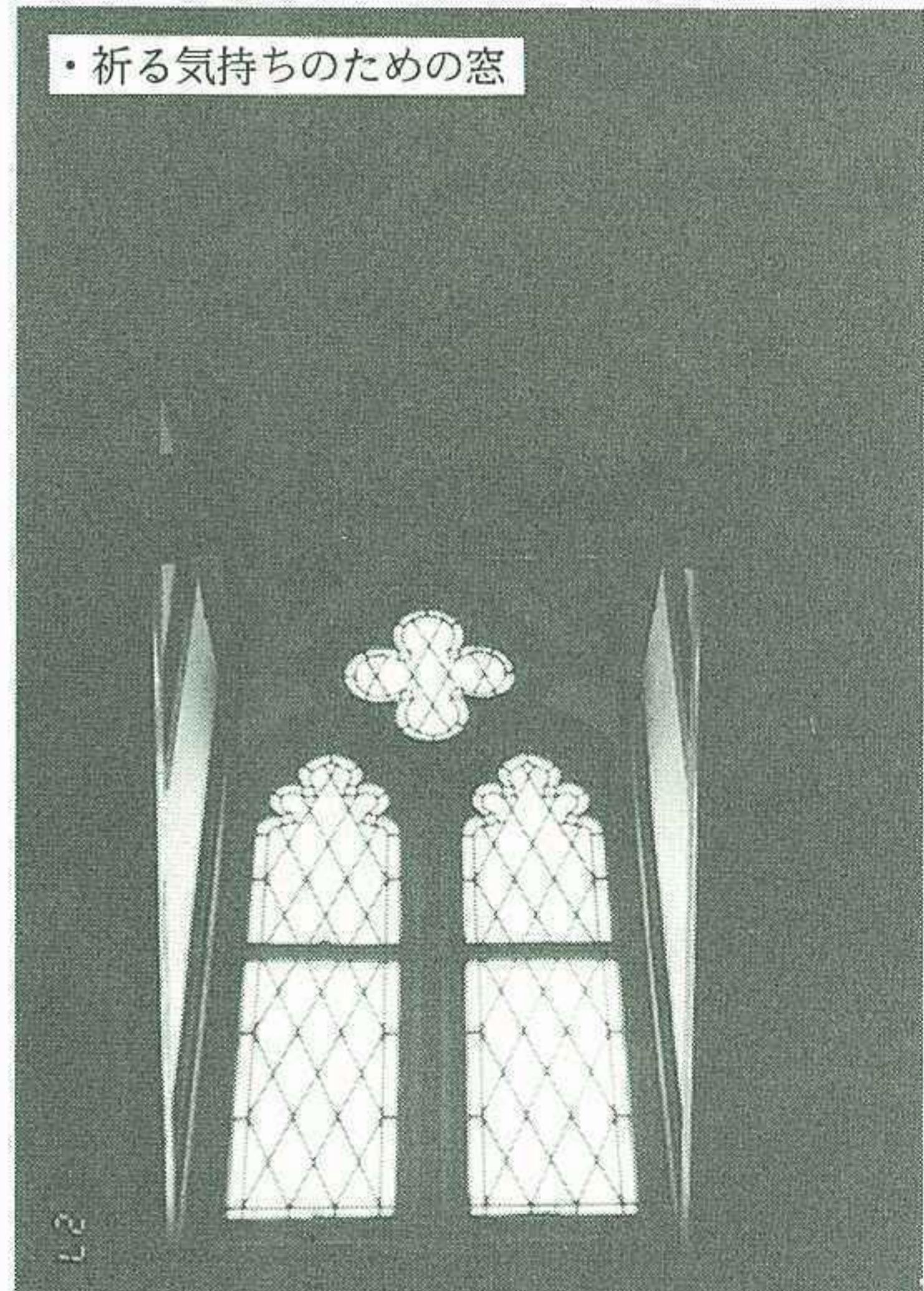
### ○窓の組み子

建築技術の進歩で大きな窓とガラスが使えるようになると人は自然とのつながりをいっそう手にできるように思えた。しかしながら事実はその逆で、何ら境目をもたない空間は自然との関係を希薄にした。

- 同じ窓でありながら、この2つの窓の質はまるで違っている



・祈る気持ちのための窓



## 解 決 法

単なる穴としての窓に、窓としての実態を与えるため組み子を設けること。  
用途に合わせて美しい模様となるよう窓の組み子そのものをデザインすると良い。

## 課 題

- ・真鶴マドの創作

### ● 単なる穴、開口部分から、本当の窓に



### ● 窓の組み子越しに外の通りを見る。 組子は建物の内部の安心感を強調し、同時に外部をより魅力的に演出するフィルターとなっている。

